



InstallShield 2016 リリースノート

(オリジナル リリース 2016 年 8 月、SP2 を含むアップデート リリース 2017 年 5 月)

はじめに	2
SP2 に含まれる変更	2
FlexNet Code Aware との統合	2
バグ修正 SP2.....	7
SP1 に含まれる変更	8
Microsoft Visual Studio 2017 のサポート	8
バグ修正 SP1.....	8
新しい機能.....	8
Windows オペレーティング システムの最新版リリースをサポート	8
Microsoft SQL Server 2016 サポート	8
UWP アプリ パッケージを作成するためのサポート.....	9
[リリース]ビュー内の UWP アプリの設定.....	10
[ショートカット]ビューにおける UWP アプリ ログのカスタマイズ	10
UWP アプリ適合性のテスト	10
スイートに追加された新しい UWP 条件のチェック.....	11
スイートに追加された SQL サポート.....	11
新しい SQLLogin 定義済みウィザード ページを追加.....	12
SQL ステートメントを直接スイートから実行.....	12
タイルの構成.....	12
新しい Microsoft Visual C++ 2015、.NET Framework 4.6 その他用の InstallShield 前提条件.....	13
Adobe Reader、Microsoft Office、および .NET Framework の前提条件システム検索.....	14
強化機能.....	14
[ダイレクト エディター]ビューの強化機能.....	15
Directory テーブルに、解決されたターゲット ディレクトリ パスが表示される.....	15
列ヘッダー スキーマ情報のツールヒント.....	15
テーブル レコード参照の追跡.....	16
破損した参照のインジケータ.....	17
スイート - UI 機能強化.....	17
新しい [Windows を閉じる] および [イベントの停止] UI アクション	17
ウィンドウを閉じる.....	18
イベントの停止.....	18
スイートでスプラッシュ スクリーンのロード追加.....	18

[プロセスの強制終了] カスタム アクションの強化内容.....	18
コンポーネントの属性に使用するデフォルト値を設定できる機能.....	19
追加のビューで、機能ごとに項目をフィルターできる機能.....	19
デジタル署名の更新.....	20
重要な情報.....	21
InstallShield の評価.....	21
InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する.....	21
InstallShield の複数エディションをインストールする.....	21
InstallShield の複数バージョンをインストールする.....	21
プロジェクトのアップグレードに関するアラート.....	22
InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報.....	22
ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更.....	22
文字列のローカライズに関する考慮.....	23
バグ修正.....	23
InstallShield 2016 SP2.....	23
InstallShield 2016 SP1.....	28
InstallShield 2016.....	38
システム要件.....	60
InstallShield を実行するシステムの要件.....	60
ターゲット システムの要件.....	61
既知の問題.....	62
法的情報.....	62

はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer または InstallScript ベースのインストール、および Microsoft App-V パッケージをオーサリングできる業界標準ツールです。InstallShield 2016 では、デスクトップブリッジ (Project Centennial) をサポートし、ユニバーサル Windows プラットフォーム アプリ パッケージおよび Windows Server アプリ パッケージを作成することができます。

InstallShield 2016 では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能と強化内容が提供されています。

SP2 に含まれる変更

FlexNet Code Aware との統合

InstallShield には、今回より FlexNet Code Aware との統合が含まれています。FlexNet Code Aware は、製品のセキュリティおよび知的財産 (IP) コンプライアンス リスクを迅速にスキャンする、自動オープンソース リスク評価およびパッケージ検出ソリューションです。

FlexNet Code Aware の現在のリリースでは、次のファイル分析がサポートされています：

- Java パッケージ
- Node パッケージ
- Nuget パッケージ
- RPM パッケージ
- Ruby パッケージ
- EXE & DLL ファイル

セキュリティ脆弱性は、[National Vulnerability Database \(NVD\)](#) と照合されます。

FlexNet Code Aware を実行する

FlexNet Code には InstallShield とは別のライセンスが必要です。トライアル / 評価版もあります。詳細については、フレクセラ・ソフトウェア Web サイトの [\[FlexNet Code Aware 製品\] ページ](#) を参照してください。

InstallShield 内部から FlexNet Code Aware を実行するには、InstallShield の **[プロジェクト]** メニューから **[FlexNet Code Aware を使ってプロジェクトをスキャン]** をクリックします。このメニュー オプションは、InstallShield プロジェクトが現在開いていない場合は無効です。FlexNet Code Aware アイコン  も、InstallShield 標準ツールバーに表示されます。

FlexNet Code Aware がプロジェクトのスキャンを完了したとき、概要にはスキャン済みファイルの数、オープン ソース パッケージ、ならびに検出された脆弱性の数が表示されます。FlexNet Code Aware のフル ライセンス版では、**[View report (レポートの表示)]** ボタンが使用できます。このレポートで提供される詳細については、「[FlexNet Code Aware レポートの読み方](#)」を参照してください。



FLEXERA SOFTWARE®
FlexNet® Code Aware™

View Report

Click "View Report" to close Code Aware and open the report in a browser.

Files	Packages	Vulnerabilities
 Files Scanned 2,532	 Packages Found 144	 Vulnerabilities Found 167

[View Report](#) [Finish](#)

FlexNet Code Aware レポートの読み方



メモ・FlexNet Code Aware レポートは、トライアル/評価版モードでは使用できません。FlexNet Code Aware のフル ライセンス版が必要です。

FlexNet Code Aware レポートを参照するためには、FlexNet Code Aware がプロジェクトをスキャンした後に表示される概要ダイアログで **[View report (レポートの表示)]** をクリックします。

FlexNet Code Aware レポートは、いくつかのセクションから構成されています：

- ・ 最初の **[Summary (概要)]** ビューには、**Scan Summary (スキャン概要)**、**Operational Risk (運用リスク)** 評価、**Security Vulnerability Exposure (セキュリティ脆弱性の公開)**、および **License Exposure (ライセンスの公開)** が提示されます。
 - ・ **[Scan Summary (スキャン概要)]** セクションは、ファイル タイプの内訳、分析済みファイルの割合、および検出数を含む、スキャン済みのコードベースについての詳細が表示されます。
 - ・ **[Operational Risk (運用リスク)]** セクションには、パッケージと知的財産 (IP) との問題、およびパッケージとセキュリティ脆弱性の組み合わせに基づいた合成リスク評価が表示されます。
 - ・ **[Security Vulnerability Exposure (セキュリティ脆弱性の公開)]** および **[License Exposure (ライセンスの公開)]** セクションには、識別された問題の種類とカテゴリーの内訳が表示されます。
- ・ **[Package Inventory (パッケージ インベントリ)]** ビューは **[Scan Summary (スキャン概要)]** セクションで **[view full package inventory (フル パッケージ インベントリの表示)]** をクリックすると表示され、検出されたオープンソースおよびサードパーティ パッケージおよび関連ライセンス、セキュリティ脆弱性、依存関係、ならびに検出された著作権ステートメントの完全リストを表示します。

[Package Inventory (パッケージ インベントリ)] ビューには、ターゲットのクエリを実行して、一覧を様々なパッケージの種類に絞り込むためのフィルターが用意されています。

次の図は、サンプル FlexNet Code Aware レポートの最初の [Summary (概要)] ビューを表示します。

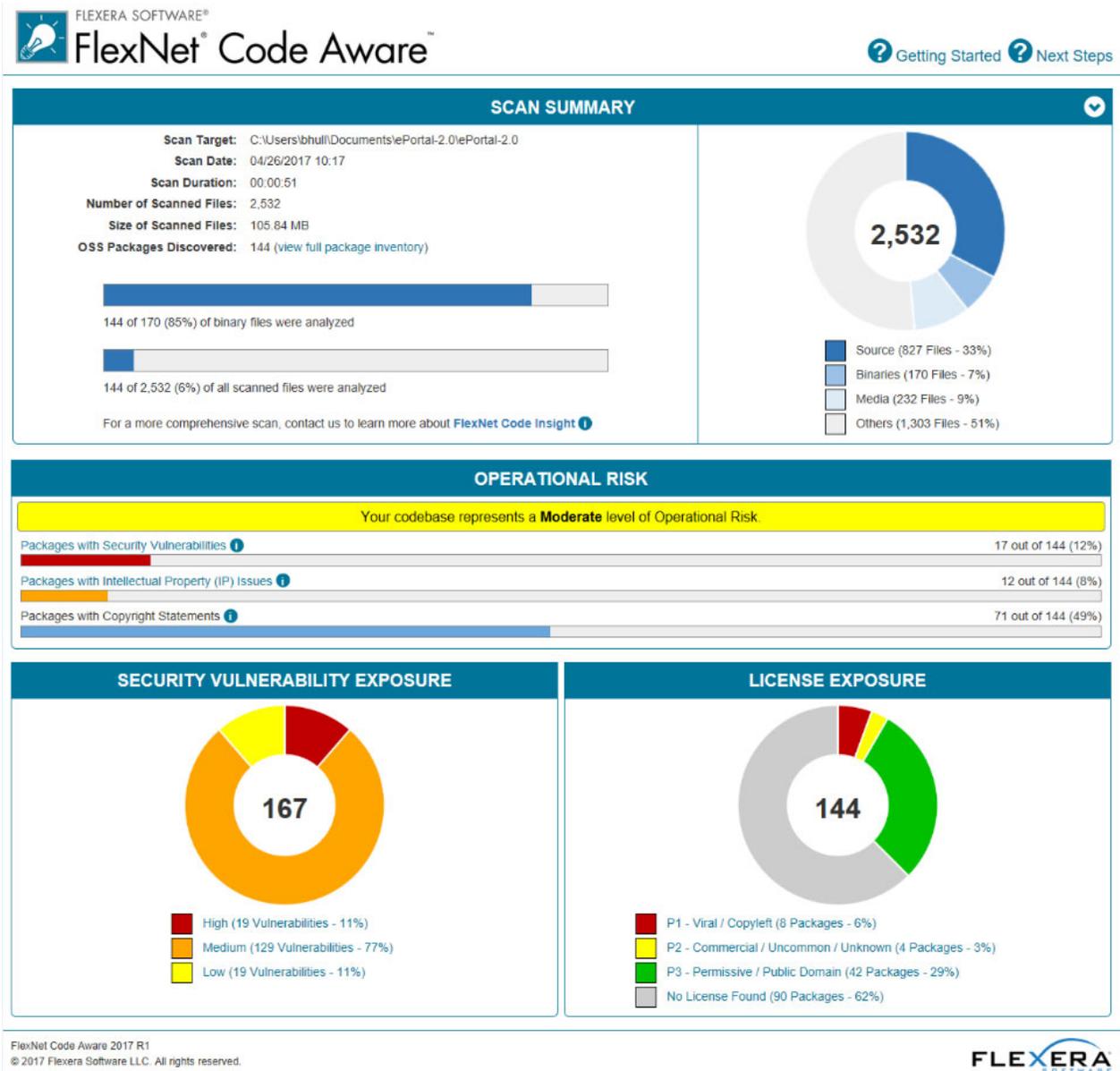


図 -1: FlexNet Code Aware [Summary (概要)] ビュー初期画面

次の図は、サンプル FlexNet Code Aware レポートの [Package Inventory (パッケージ インベントリ)] ビューを表示します。

FlexNet Code Aware Getting Started Next Steps

Search
 Enter keyword...
 Enter CVE (CVE-XXXX-XXXX)...
 Enter copyright holder

Security Vulnerabilities
 High Severity (CVSS 7.0 - 10.0)
 Medium Severity (CVSS 4.0 - 6.9)
 Low Severity (CVSS 0.0 - 3.9)

Detected Licenses
 P1 - Viral / Copyleft
 P2 - Commercial / Uncommon / Unknown
 P3 - Permissive / Public Domain
 No License Found

Apply Or Criteria Filter Reset

Licenses Legend: P1 - Viral / Copyleft P2 - Commercial / Uncommon / Unknown P3 - Permissive / Public Domain
 Vulnerabilities Legend: High Severity (CVSS 7.0 - 10.0) Medium Severity (CVSS 4.0 - 6.9) Low Severity (CVSS 0.0 - 3.9)

Browsing 1-10 of 144 Packages

Package	License	Vendor	Vulnerabilities	# Copyrights
mysql_connector_c 5.1.7	No License Found	Mysql	94 High Severity, 5 Medium Severity, 71 Low Severity, 18 Uncommon/Unknown	None Found
struts 1.2.7	Apache-2.0	Apache	7 High Severity, 2 Medium Severity, 5 Low Severity, 0 Uncommon/Unknown	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Pivotal_software	6 High Severity, 1 Medium Severity, 5 Low Severity, 0 Uncommon/Unknown	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Springsource	6 High Severity, 1 Medium Severity, 5 Low Severity, 0 Uncommon/Unknown	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Pivotal_software	6 High Severity, 1 Medium Severity, 5 Low Severity, 0 Uncommon/Unknown	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Pivotal_software	6 High Severity, 1 Medium Severity, 5 Low Severity, 0 Uncommon/Unknown	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Pivotal_software	6 High Severity, 1 Medium Severity, 5 Low Severity, 0 Uncommon/Unknown	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Pivotal_software	6 High Severity, 1 Medium Severity, 5 Low Severity, 0 Uncommon/Unknown	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Pivotal_software	6 High Severity, 1 Medium Severity, 5 Low Severity, 0 Uncommon/Unknown	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Springsource	6 High Severity, 1 Medium Severity, 5 Low Severity, 0 Uncommon/Unknown	None Found

10 2 3 4 5 ... 15

図 -2: FlexNet Code Aware [Package Inventory (パッケージ インベントリ)] ビュー

パッケージの詳細を確認する

[Package Inventory (パッケージ インベントリ)] レポート ページの [Vulnerabilities (脆弱性)] 列にある脆弱性カウントをクリックして、各パッケージの詳細を確認します：

Vulnerabilities

7 High Severity | 2 Medium Severity | 5 Low Severity | 0 Uncommon/Unknown

6 High Severity | 1 Medium Severity | 5 Low Severity | 0 Uncommon/Unknown

パッケージ インベントリ レポートの一部が含まれた [Vulnerabilities detail (脆弱性の詳細)] が表示されます:

struts 1.2.7 ✕

Name	struts 1.2.7
Version	1.2.7
License	 Apache-2.0
Vulnerabilities	 7  2  5  0
Description	The core of the Struts framework is a flexible control layer based on standard technologies like Java Servlets, JavaBeans, ResourceBundle, and Extensible Markup Language (XML), as well as various Jakarta Commons packages. Struts encourages application architectures based on the Model 2 approach, a variation of the classic Model-View-Controller (MVC) design paradigm. Struts provides its own Controller component and integrates with other technologies to provide the Model and the View. For the Model, Struts can interact with any standard data access technology, including Enterprise Java Beans, JDBC, and Object Relational Bridge. For the View, Struts works well with JavaServer Pages, including JSTL and JSF, as well as Velocity Templates, XSLT, and other presentation systems. The Struts framework provides the invisible underpinnings every professional web application needs to survive. Struts helps you create an extensible development environment for your application, based on published standards and proven design patterns.
Path	C:\Users\bhull\Documents\Portal-2.0\Portal-2.0\extras\struts-1.2.7\contrib\struts-el\lib\struts.jar C:\Users\bhull\Documents\Portal-2.0\Portal-2.0\extras\struts-1.2.7\lib\struts.jar
Evidence Type	pom.xml
Maven GAV	struts:struts:1.2.7
Vendor	Apache
Copyrights	None Found

Security Vulnerabilities ▼

CVE ID: [CVE-2006-1547](#)
Severity:  High
CVSS Score: 7.8

バグ修正 SP2

InstallShield 2016 SP1 で解決された問題については、「[InstallShield 2016 SP2](#)」を参照してください。

SP1 に含まれる変更

Microsoft Visual Studio 2017 のサポート

InstallShield は、Visual Studio 2017 をサポートします。このバージョンの Visual Studio 内部から InstallShield プロジェクトを作成できます。

バグ修正 SP1

InstallShield 2016 SP1 で解決された問題については、「[InstallShield 2016 SP1](#)」を参照してください。

新しい機能

InstallShield 2016 には、以下のような新しい機能が搭載されています。

- [Windows オペレーティング システムの最新版リリースをサポート](#)
- [Microsoft SQL Server 2016 サポート](#)
- [UWP アプリ パッケージを作成するためのサポート](#)
- [スイートに追加された SQL サポート](#)
- [タイルの構成](#)
- [新しい Microsoft Visual C++ 2015、.NET Framework 4.6 その他用の InstallShield 前提条件](#)
- [Adobe Reader、Microsoft Office、および .NET Framework の前提条件システム検索](#)

Windows オペレーティング システムの最新版リリースをサポート

InstallShield 2016 は、Windows オペレーティング システムの最新版リリースをサポートします。

- [Windows 10 Anniversary Update](#)
- [Windows Server 2016](#)

InstallShield をこれらのオペレーティング システムにインストールできるだけでなく、これらのオペレーティング システムをターゲットにするインストールを作成することができます。

Microsoft SQL Server 2016 サポート



プロジェクト・Microsoft SQL Server 2016 サポートは、次のプロジェクト タイプで使用できます：

- *基本の MSI*
- *DIM*

- *InstallScript*
- *InstallScript MSI*

InstallShield に、SQL Server 2016 Database 上で SQL スクリプトを実行できるサポートが追加されました。また、InstallShield の [SQL スクリプト] ビューで、製品がサポートするターゲット データベース サーバーを指定するときに選択可能な定義済みデータベース サーバーのリストには、SQL Server 2016 が含まれています。

インストールで SQL Server 2016 をターゲットするとき、エンドユーザーがデータベース サーバーを参照する選択をしたときに表示される SQLBrowse ランタイム ダイアログで、SQL Server 2016、SQL Server 2016 Express、および SQL Server 2014 Express LocalDB のインスタンスが表示できるようになりました。また、エンドユーザーがデータベース カタログを参照する選択をしたときに表示される SQLBrowse ランタイム ダイアログで、指定された SQL Server 2016 サーバー上のカタログが表示されるようになりました。

InstallShield に追加された、新しい InstallShield 前提条件の完全リストは「[新しい Microsoft Visual C++ 2015、.NET Framework 4.6 その他用の InstallShield 前提条件](#)」を参照してください。



メモ・Microsoft SQL Server 2016 は 64-bit (x64) のみです。

UWP アプリ パッケージを作成するためのサポート



プロジェクト・UWP アプリの作成機能は、基本の MSI プロジェクトで使用できます。



重要・デスクトップ拡張 (デスクトップブリッジ、Project Centennial として知られる) を含む UWP アプリ パッケージ (.appx) のインストールおよびテストを行うには、Windows 10 Anniversary Update が必要です。UWP アプリ パッケージにデジタル署名を行う場合、InstallShield を Windows 10 または Windows 10 SDK がインストールされているマシン上にインストールする必要があります。

Windows 8.x および 10 上にアプリを配布およびインストールする為に使用される UWP アプリ パッケージ (.appx) は、シンプルでセキュリティ保護されたパッケージ フォーマットで、UWP (ユニバーサル Windows プラットフォーム) で使用可能な唯一のフォーマットです。UWP アプリ パッケージの利点:

- 高い可用性、信頼性、および耐久性によって、アプリケーションが長期間にわたってエラーなしで継続的に動作し続けます。
- 必要最小限の構成とカスタマイズ不要な UI によるスタティックビルドを使ったスムーズなインストール体験
- Windows ストアを使ってアプリケーションを販売または提供できるオプション
- UWP API を使用できる機能だけでなく、ライブ タイルなどの UWP 機能を活用
- Windows Nano Server 上でネイティブ サポートを持つ唯一のパッケージ フォーマット

InstallShield は今回より、代替ビルド出力を通して UWP アプリ パッケージ フォーマット (.appx) およびそのデスクトップ / サーバー拡張機能の作成をサポートし、UWP アプリ パッケージ フォーマットに適合しないアイテムを識別するための適合性テストを提供します。UWP アプリ パッケージの作成をサポートする InstallShield に新しく追加された機能の詳細については、次のサブセクションをご覧ください。

- [\[リリース\]ビュー内の UWP アプリの設定](#)
- [\[ショートカット\]ビューにおける UWP アプリ ログのカスタマイズ](#)
- [UWP アプリ適合性のテスト](#)
- [スイートに追加された新しい UWP 条件のチェック](#)

[リリース]ビュー内の UWP アプリの設定

[リリース]ビューでリリースを選択するとき、**[Windows アプリ]**という名前の新しいリリースごとに提供されるタブに、UWP アプリ パッケージを作成する設定が追加されました。ここで、UWP アプリ パッケージのビルド プロセスに影響する様々な主要な設定を指定できます。特に**[配布方法]**、**[デスクトップ拡張を含む]**、または**[サーバー拡張を含む]**オプションは、特定の種類のインストーラー プロジェクト データにどの警告またはエラーが発生するかに影響します。

これらの新しい設定に関する総合的な情報は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「リリースの [Windows アプリ] タブ」を参照してください。

[ショートカット]ビューにおける UWP アプリ ログのカスタマイズ

[リリース]ビューに追加された新しい UWP アプリの設定以外にも、UWP アプリ パッケージで作成されたタイルを構成するための新しい設定があります。これらの設定は、**[ショートカット]ビューの [UWP アプリ パッケージのオーバーライド]**領域にあります。

これらの新しい設定に関する詳細は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「ショートカットの設定」を参照してください。

UWP アプリ適合性のテスト

InstallShield には、.msi パッケージ内で UWP アプリ パッケージ フォーマットに適さないアイテムの存在をスキャンする、新しい **InstallShield UWP アプリ適合性スイート**が追加されました。アクセスするには、**[ビルド]**メニューから**[検証]**をポイントしてから、**[InstallShield UWP アプリ適合性スイート]**をクリックします。

InstallShield UWP アプリ適合性スイートは、問題が見つかったすべてのテストを**[リリース]ビュー**に表示し、各問題に関連付けられた列に既知の UWP アプリ形式への適用性を示します。従来型の CUB の場合、これらの列は空白のままです。このレポートは、**[リリース]ビュー**で、リリースの下にある**[検証]**フォルダーを選択すると表示されます。新しい ISUWP 検証ツールの説明を含む総合情報は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「InstallShield UWP アプリ適合性スイート」を参照してください。

スイートに追加された新しい UWP 条件のチェック

アドバンスド UI またはスイート / アドバンスド UI プロジェクトで終了、検出、対象、機能、またはウィザード インターフェイス条件の条件ステートメントをビルドするとき、またはスイート / アドバンスド UI プロジェクトでアクション条件の条件ステートメントをビルドするとき、ターゲット システム上で評価するチェックを様々な異なる種類から選択できます。スイートに次の条件チェックが追加されました。

- **UWP アプリ パッケージの対象** – ターゲット システムで UWP アプリ パッケージの実行時依存ファイルの存在を確認して、これをサポートしない Windows または Windows Server バージョンに UWP アプリ パッケージがインストールされることのないように防ぎます。



メモ・この条件は、UWP アプリ パッケージの対象条件のみで使用可能です。別のパッケージ タイプで使用した場合、正しく機能しません。

- **UWP タイプの存在** – ターゲット システムをチェックして、UWP 機能の存在を確認します。たとえば、デスクトップ ブリッジの存在を確認する条件ステートメントを作成するには、Windows.ApplicationModel.FullTrustProcessLauncher タイプを確認します。これは、条件付でインストールをブロックする、または .msi および UWP アプリ パッケージ (.appx) のどちらをインストールするかを選択する場合に使用できます。



メモ・これは、Windows 10 以前のオペレーティング システムで常に False 評価されます。
“Windows.ApplicationModel.FullTrustProcessLauncher” タイプ名サブ設定を使用するには、Windows 10 Anniversary Update 以降が必要です。

スイートに追加された SQL サポート



プロジェクト・この情報は、スイート / アドバンスド UI プロジェクトに適用します。



エディション・スイート / アドバンスド UI プロジェクト タイプは、InstallShield Premier Edition で使用できません。

SQL サーバーは、特に InstallShield スイート インストールで提供される複数パッケージ サポートを活用する多くのアプリケーションで不可欠です。以前、InstallShield SQL サポートが使用できるのは基本の MSI、InstallScript、および InstallScript MSI プロジェクトのみでした。今回より、SQL サポートがスイート / アドバンスド UI プロジェクトに追加されており、以下の機能を使用することができます：

- **新しい SQLLogin 定義済みウィザード ページを追加**
- **SQL ステートメントを直接スイートから実行**

詳細については、InstallShield ヘルプ ライブラリの次のトピックを参照してください。

- **スイート / アドバンスド UI プロジェクトで、SQLLogin 定義済みウィザード ページを追加する**
- **ウィザード インターフェイス内の要素のアクションを構成する**

- ・ [定義済みタスク ページ] パネル

新しい SQLLogin 定義済みウィザード ページを追加

InstallShield では、新しい **SQLLogin 定義済みウィザード ページ** を使ってスイート / アドバンスド UI プロジェクトに SQL サポートを追加します。以前、スイート / アドバンスド UI プロジェクトに SQL サポートを含む .msi パッケージを追加すると、アドバンスド UI またはスイート / アドバンスド UI セットアップ起動プログラムが Windows Installer のユーザー インターフェイスを自動的に抑制しました。スイート / アドバンスド UI プロジェクト インストールにカスタム SQLLogin ウィザード ページを手動で作成する必要がありました。

新しい定義済みのページをプロジェクトに追加するとき、**[データベース サーバーのログイン情報を入力]** タスク ページを選択して、必要に応じてウィザードのパネルを完了させます。その後、SQLLogin 定義済みウィザード ページを、プロジェクトに追加します。この SQLLogin ウィザード ページを使って、エンド ユーザーはデータベース サーバー ログイン情報（データベース サーバー名、認証資格情報、データベース カタログ名など）を入力し、スイートに含まれる 1 つ以上の .msi パッケージがターゲットとするデータベース サーバーへの接続を設立することができます。

SQLLogin ウィザード ページをプロジェクトに追加すると、以下が可能となります：

- ・ スイート プロジェクト内の SQL ログインの設定を識別するプロパティを指定してから、これらのプロパティを受け取る .msi パッケージを選択する
- ・ .msi パッケージ内で SQL ログインの設定を識別するプロパティを指定する
- ・ データベース テクノロジ (Microsoft SQL Server、Microsoft Windows Azure、MySQL、または Oracle) を選択して、ターゲットにする ODBC ドライバーを選択する

SQL ステートメントを直接スイートから実行

スイート / アドバンスド UI プロジェクトでは今回より、ユーザー インターフェイスから SQL データベース サーバー上の SQL ステートメントを直接実行することができます。これによって、インストール続行前に SQL データベース サーバーを調査することができます。

これによって、スイート プロパティで SQL クエリの結果にアクセスが可能となります。このサポートを使用するための **[SQL 文字列を実行]** オプションが、UI イベントの **[新しいアクション]** メニューに追加されています。SQL ステートメントは、UI イベントの **[新しいアクション]** メニューで使用できる新しい追加オプション (**[データベース メタデータの構成]** および **[SQL ログイン プロパティのオーバーライド]**) を使って指定されたプロパティおよびデータベース メタデータ を使って実行されます。

タイルの構成



プロジェクト・この情報は、基本の MSI、InstallScript MSI、および InstallScript プロジェクトに適用しません。

Windows 8 からアプリケーション タイルのグリッドをスタート画面に表示できるようになりました。これは、今までのショートカットの一覧に取って代わるもので、ショートカットの代わりにタイルを配置します。InstallShield は、スタート画面上のデスクトップ アプリのタイルの外観をカスタマイズすることができます。次のタイル構成設定が使用できます：

- ・ アプリケーション名を中サイズ (150x150) のタイルに含めるとき、明色または暗色のテキストを切り替える
- ・ タイル背景色を選択
- ・ カスタム タイル イメージ (小 : 70x70、中 : 150x150) の使用オプション
- ・ アプリケーション名を中サイズ タイルに表示または非表示を選択

[タイルの構成] ノードは、メインの [ショートカット] ビューおよび各コンポーネントの [ショートカット] サブビューに表示されます。すべての該当するタイル構成が一覧表示されます。

詳細については、InstallShield ヘルプ ライブラリの次のトピックを参照してください。

- ・ スタート画面上のデスクトップ アプリのタイルの外観を構成する
- ・ [タイル構成] の設定

新しい Microsoft Visual C++ 2015、.NET Framework 4.6 その他用の InstallShield 前提条件



プロジェクト・InstallShield 前提条件は、アドバンスド UI、基本の MSI、InstallScript、InstallScript MSI、およびスイート/アドバンスド UI プロジェクトに追加できます。

InstallShield には、以下の InstallShield 前提条件が含まれています。

- ・ Microsoft .NET Framework 4.6.1 (完全版)
- ・ Microsoft .NET Framework 4.6.1 (Web インストーラー)
- ・ Microsoft ReportViewer 2015
- ・ Microsoft SQL Server 2014 Express System CLR Types (x86)
- ・ Microsoft SQL Server 2016 Express RTM (x64)
- ・ Microsoft SQL Server 2016 Express RTM LocalDB (x64)
- ・ Microsoft Visual C++ 2015 Update 3 再配布可能パッケージ (x86)
- ・ Microsoft Visual C++ 2015 Update 3 再配布可能パッケージ (x64)
- ・ Windows Management Framework 4.0 for Windows 7 SP1 および Server 2008 R2 SP1 (x64)
- ・ Windows Management Framework 4.0 for Windows Server 2012 (x64)
- ・ Windows Management Framework 5.0 for Windows 7 SP1 (x86)
- ・ Windows Management Framework 5.0 for Windows 7 SP1 および Server 2008 R2 SP1 (x64)
- ・ Windows Management Framework 5.0 for Windows 8.1 (x86)
- ・ Windows Management Framework 5.0 for Windows 8.1 および Server 2012 R2 (x64)
- ・ Windows Management Framework 5.0 for Windows Server 2012 (x64)

これらの前提条件は、サポートされているターゲット システムに適切なテクノロジーをインストールします。



メモ .NET Framework の Web 前提条件には、インターネット接続が必要です。この前提条件は、必要に応じて、必須の再配布可能ファイルをダウンロードします。.NET Framework の完全な前提条件は、インターネットへの接続が不要なスタンドアロン インストールです。

Adobe Reader、Microsoft Office、および .NET Framework の前提条件システム検索



プロジェクト・前提条件システム検索は、基本の MSI および InstallScript MSI プロジェクトに適用しません。

InstallShield に新しい定義済みシステム検索が追加されました：

- Adobe Reader 11
- Adobe Reader DC
- Microsoft Office 2013
- Microsoft Office 2016
- Microsoft .NET Framework 4.5.1
- Microsoft .NET Framework 4.5.2
- Microsoft .NET Framework 4.6
- Microsoft .NET Framework 4.6.1

インストールでこれらの 1 つまたは両方が必要な場合、[システム検索] ビューまたはプロジェクトアシスタントの [インストール要件] ページを使って、これらのシステム検索をプロジェクトに追加することができます。エンドユーザーがインストールを起動すると、Windows Installer はターゲットシステムの要件が満たされているかどうかを確認します。要件が満たされていない場合、インストールでシステム検索用に定義されているエラーメッセージが表示されます。

強化機能

InstallShield 2016 には、以下のような強化機能が搭載されています。

- [ダイレクト エディター] ビューの強化機能
- スイート - UI 機能強化
- [プロセスの強制終了] カスタム アクションの強化内容
- コンポーネントの属性に使用するデフォルト値を設定できる機能
- 追加のビューで、機能ごとに項目をフィルターできる機能
- デジタル署名の更新

[ダイレクト エディター] ビューの強化機能



プロジェクト・ダイレクト エディターは、次のプロジェクト タイプで使用できます：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI
- ・ InstallScript オブジェクト
- ・ マージ モジュール
- ・ MSI データベース
- ・ MSM データベース
- ・ QuickPatch
- ・ トランスフォーム

InstallShield には今回より、テーブル、スキーマ情報、および検証エラーの詳細を確認できるいくつかのダイレクト エディター強化内容が追加されています。これにより、ダイレクト エディターを使って高度な問題を識別および解決するためにトラブルシューティングを行うセットアップ作成者またはパッケージ作成者の生産性が飛躍的に高まります。これらの強化内容について、次のセクションに分けて説明されています：

- ・ [Directory テーブルに、解決されたターゲット ディレクトリ パスが表示される](#)
- ・ [列ヘッダー スキーマ情報のツールヒント](#)
- ・ [テーブル レコード参照の追跡](#)
- ・ [破損した参照のインジケータ](#)

詳細については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「ダイレクト エディター」を参照してください。

Directory テーブルに、解決されたターゲット ディレクトリ パスが表示される

Directory テーブルを表示するとき、InstallShield は各行についてディレクトリの場所の解決済みパスを表示する読み取り専用の灰色列を表示します。この列は実際、プロジェクト ファイルには保存されません。表示されるテキストごとに並べ替えることができますが、その値を挿入、更新、または削除することはできません。

列ヘッダー スキーマ情報のツールヒント

InstallShield は今回より、使用可能な列データの種類の示すスキーマ情報を表示する列ヘッダーに、ツールヒントを表示します。

- ・ **ヌル可能**— 列は空白のままに残すことが可能です。
- ・ **必須**— 列には、必ず空白以外の値が必要です。
- ・ **文字 (*nn*)**— 固定文字数 *nn* の文字列。

- ・ **小さい整数** – 整数値（小数点なし）、-32767 から +32767 までの値を含む。
- ・ **長い整数** – 整数値（小数点なし）、-2147483647 から ++2147483647 までの値を含む。
- ・ **ローカライズ可能** – 翻訳可能な文字列を含む列。このマークが付いていない列は、ローカライズ不可能です。
- ・ **ストリームファイルのコンテンツなどの、バイナリ ストリーム。**



ヒント・*Directory*、*Binary*、および *CustomAction* ダイレクト エディター テーブルには、これらの種類の列のいくつかが表示されます。

テーブル レコード参照の追跡

ダイレクト エディターには今回より、テーブル レコードの関係性を簡単に確認することができる [参照の追跡] ペインが追加されています。ダイレクト エディター 上部に追加された **[参照の追跡を表示]** ボタンを使って、ペインの表示 / 非表示を切り替えることができます。

各レコードは、1 つ以上のレコードを参照、または 1 つ以上のレコードによって参照されている可能性があります。レコードが強調表示されている場合、別のレコードを参照しているか、別のレコードから参照されていることを示し、[参照の追跡] ペインには、参照が存在するテーブルを表示する **[参照テーブル]** セクション、および実際のレコードの参照を表示する追加セクションが含まれます。レコードの参照セクションには、参照の方向を示す矢印アイコンが表示されます。

- ・ 右向きの緑色矢印は、ダイレクト エディター テーブルで選択されたレコードが [参照の追跡] ペインに表示されているレコードを**参照する**ことを示します。
- ・ 左向きの青色矢印は、ダイレクト エディター テーブルで選択されたレコードが [参照の追跡] ペインに表示されているレコードによって**参照されている**ことを示します。
- ・ 両方向を指す 2 つの矢印（右向きの緑色矢印と左向きの青色矢印）は、ダイレクト エディター テーブルで選択されたレコードが [参照の追跡] ペインに表示されているレコードを**参照する**、および**参照されている**ことを示します。



メモ・複数のダイレクト エディター レコードが選択されている場合、フォーカスされているレコードのみの参照が表示されます。さらに、複数のテーブルが **[参照テーブル]** セクションに表示された場合、ダイレクト エディター テーブルで選択されたレコードが参照する、または複数のテーブルのレコードによって参照されることを示します。関連するレコードの参照を表示するには、**[参照テーブル]** セクションにある任意のテーブルをクリックします。



ヒント・[参照の追跡] ペインでは、セル内をダブルクリックしてレコードの参照間を簡単に移動することができます。

破損した参照のインジケータ

ダイレクト エディターのテーブル レコードが、もう存在しない外部キー レコードを参照している場合があります。InstallShield は今回より、このような破損した参照を持つセルに注意が向くように、赤い背景色を使用します。

たとえば、**Component** テーブルの **Directory_** 列が、**Directory** テーブルで見つからないディレクトリ名を参照する場合、**Directory_** 列が赤い背景色で表示されます。



メモ・ダイレクト エディターの破損した参照インジケータは、[オプション] ダイアログ ボックスの [プリファレンス] タブにある [参照の整合性を維持] チェックボックスには関連していません。“参照の整合性を維持”設定は、プライマリ キーを変更したときに、外部キーを更新することを目的とし、破損した参照インジケータは、親の無いレコードを簡単に識別できるよう、破損した参照を表示します。このため、破損した参照は“参照の整合性を維持”設定で行った選択に関係なく表示されます。

スイート - UI 機能強化



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI



エディション・アドバンスト UI プロジェクト タイプは、InstallShield の Professional Edition で使用できます。スイート/アドバンスト UI プロジェクト タイプは、InstallShield Premier Edition で使用できません。これらの 2 つのプロジェクト タイプの違いについては、InstallShield ヘルプ ライブラリの「アドバンスト UI プロジェクトとスイート/アドバンスト UI プロジェクトの違い」を参照してください。

様々な用途を広くサポートするために、InstallShield ではアドバンスト UI およびスイート/アドバンスト UI プロジェクトに次の機能が追加されています：

- ・ 新しい [Windows を閉じる] および [イベントの停止] UI アクション
- ・ スイートでスプラッシュ スクリーンのロード追加

新しい [Windows を閉じる] および [イベントの停止] UI アクション

InstallShield には、以下のような新しい UI アクションが搭載されています。

- ・ ウィンドウを閉じる
- ・ イベントの停止

詳細は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「ウィザード インターフェイス内の要素のアクションを構成する」を参照してください。

ウィンドウを閉じる

この種類のアクションは、メインのウィザード ページまたは 2 番目のウィンドウを閉じるか、場合によっては 2 番目のウィンドウを条件付きで閉じます。

[ウィンドウを閉じる] アクションには、次の定義済みリターン コード ID に対応するパラメータを使用できます : IDOK、IDCANCEL、IDABORT、IDRETRY、IDIGNORE、IDYES、IDNO、および IDCLOSE

[ウィンドウを閉じる] アクションの動作は、ウィザード ページおよび 2 番目のウィンドウで次のように多少異なります :

- ウィザード ページの場合、[ウィンドウを閉じる] アクションはそのリターン コード パラメータが IDCANCEL に設定されている場合、エンド ユーザーがウィザードをキャンセルできるプロンプトを表示 (また、エンド ユーザーが [はい] を指定した場合にウィザードを中断します)。その他のリターン コード ID の場合、ウィザードがすぐに閉じます。
- 2 番目のウィンドウの場合、[ウィンドウを閉じる] アクションは 2 番目のウィンドウを閉じます。また特殊な場合、たとえば 2 番目のウィンドウが ISRMFilesInUse および ISRMFileInUse の場合は指定されたリターン コード値が戻されます。

InstallShield では現在、指定されたリターン コード ID によって異なるカスタム動作を含む、次の 2 番目のウィンドウが提供されています :

- ISDownloadProgress
- ISPromptForSourceMedia
- ISFilesInUse
- ISRMFilesInUse
- ISUpgradeParcel

イベントの停止

この種類のアクションは、後に続くアクションの処理を条件付きで停止します。たとえば、このアクションを使ってボタンのデフォルト動作を抑制することができます。

スイートでスプラッシュ スクリーンのロード追加

ロード処理に 0.5 秒以上を要するスイート インストール中、InstallShield は今回より、[インストールよろこ] ダイアログが表示される前に、プログラムが起動済みで、ロード処理を完了する必要があることを示す、スプラッシュ スクリーンを表示します。スプラッシュ スクリーンに、InstallShield は提供されている中から一番大きい **setup.exe** アイコンを使用し、進行状況バーも含まれます。

この機能により IOJ-1729167 が解決されました。

[プロセスの強制終了] カスタム アクションの強化内容



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します :

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI

[プロセスの強制終了] カスタム アクションの設定に新しい“プロセス”設定が追加されました。この設定を使って、[プロパティ マネージャー] を使用してプロパティを作成、およびアクションが正しく動作するようその値を正しくフォーマットする必要なしに、強制終了する実行可能ファイルの名前またはプロセスの PID を直接入力することができます。

詳細については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「プロセスの強制終了カスタム アクションの呼び出し」を参照してください。



ヒント・“プロセス”設定の値は、*ISTerminateProcesses* プロパティに書き込まれる場合があります。*InstallShield 2015* 以前から移行したプロジェクトなど、“プロセス”設定に値が指定されていない追加の *kill-process* カスタム アクションがある場合、*ISTerminateProcesses* プロパティを共有して使用すると予期しない動作が発生する可能性があります。

コンポーネントの属性に使用するデフォルト値を設定できる機能

InstallShield テーブルで、コンポーネント属性に使用されるデフォルト値を設定するための新しいプロパティのサポートが追加されました。**InstallShield** テーブルに **MsiComponentAttributes** のプロパティが存在する場合、その値は **Component** テーブル内のデフォルト **Attributes** 列値を 8 から指定の値にオーバーライドします。

たとえば、新しいコンポーネントを 64 ビットとする場合、**MsiComponentAttributes** 値に 256 を追加します。264 (64 ビット共有の場合)、または 256 (64 ビット非共有の場合) を指定できます。これによって、“64 ビット コンポーネント” および “共有” 設定 ([コンポーネント] ビューの [全般] 領域) がそれぞれ [はい] または [いいえ] に更新されます。

Component テーブルの **Attributes** 列を計算する時に使用されるビット値についての詳細は、MSDN ライブラリの「[Component Table](#)」ページを参照してください。



メモ・コンポーネント属性に使用されるデフォルト値を設定するには、各プロジェクトの **ダイレクトエディタ** にある **InstallShield** テーブルに、手動で **MsiComponentAttributes** プロパティを更新する必要があります。この場合、製品構成の“**テンプレートの概要**”設定は無視されます。

追加のビューで、機能ごとに項目をフィルターできる機能

次のビューには今回より、プロジェクトに含まれる任意の機能ごとにビュー リストをフィルターすることができる [ビュー フィルター] が用意されています。

- ・ **[環境変数] ビュー**—このビューの上部にある [ビュー フィルター] リストを使って、プロジェクトに含まれる特定機能に関連付けられた環境変数を表示 / 非表示にすることができます。[ビュー リスト] から機能を選択して、その機能のみを後に続くイベント (たとえば、環境変数の作成、変更、または削除) に関連付けることができます。最後に、プロジェクトに含まれるすべての環境変

数を表示するには、[ビュー フィルター] リストで [すべてのアプリケーション データ] オプションを選択します。詳細については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「[環境変数] ビュー」を参照してください。

- **[テキスト ファイルの変更] ビュー**—このビューの上部にある [ビュー フィルター] リストを使って、プロジェクトに含まれる特定機能に関連付けられたテキスト ファイルの変更セットを表示 / 非表示にすることができます。[ビュー リスト] から機能を選択して、その機能のみを後に続くイベント（たとえば、変更セットの作成、変更、並べ替え、または削除）に関連付けることができます。結果となる変更は、機能がインストールされる時にターゲット システム上で実行時に行われます。最後に、プロジェクトに含まれるすべてのテキスト ファイルの変更セットを表示するには、[ビュー フィルター] リストで [すべてのアプリケーション データ] オプションを選択します。詳細については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「[テキスト ファイルの変更] ビュー」を参照してください。
- **[INI ファイルの変更] ビュー**—このビューの上部にある [ビュー フィルター] リストを使って、プロジェクトに含まれる特定機能に関連付けられた初期化 (.ini) ファイルを表示 / 非表示にすることができます。[ビュー リスト] から機能を選択して、その機能のみを後に続くイベント（たとえば、.ini ファイルの作成、インポート、変更、または削除）に関連付けることができます。結果となる変更は、機能がインストールされる時にターゲット システム上で実行時に行われます。最後に、プロジェクトに含まれるすべての .ini ファイルを表示するには、[ビュー フィルター] リストで [すべてのアプリケーション データ] オプションを選択します。詳細については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「[INI ファイルの変更] ビュー」を参照してください。

デジタル署名の更新

InstallShield 2015 より、インストールおよびファイルをビルド時に署名する際、SHA-256 ハッシュ アルゴリズムを使ったデジタル証明書を使用できるサポートが追加されました。

InstallShield 2016 では、Windows Installer および InstallScript プロジェクトの SHA-256 デジタル証明書サポートが次のように強化されています：

- **[証明書の選択]** ダイアログ ボックスの新しい [署名ダイジェスト] ドロップダウンを使って、ダイジェストの種類を指定できる機能
- 今回より、RFC3161 タイムスタンプがサポートされていて、**settings.xml** で次の記述を含んで指定できます：
 - .msi、.exe、および .dll ファイルでは、**DigitalSignature/@Timestamp** は **Authenticode** または **RFC3161 サーバー**
 - UWP アプリ パッケージファイルに使用される **DigitalSignature/@TimestampRFC3161** ファイルは **RFC3161 サーバー** でなくてはなりません
- 証明書ストアにある類似した名前の証明書も処理します



重要・2016 年 1 月以降に作成またはタイムスタンプが付けられたすべての新しい署名は、SHA-256 に基づく必要があります。SHA-1 証明書を使って署名されているすべてのファイルを継続してサポートするためには、2016 年 1 月以前の日時を使ったタイムスタンプを含める必要があります。これらのファイルは、すべての現在のバージョンの Windows ですべての SHA-1 サポートが停止される 2020 年 1 月 14 日まで、MOTW (Mark of the web) システムを使って引き続き使用することができます。

重要な情報

InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、ナレッジベース記事「[Q200900](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。

InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[\[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用\]](#) に記述されている通り、フレクセラ・ソフトウェア製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です：

- InstallShield
- 再配布可能ファイル（たとえば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト）
- Standalone Build、InstallShield Collaboration、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン（使用可能な場合）
- FlexNet Licensing Server ソフトウェア（同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合）
- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック（使用可能な場合）

InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2016 の Premier、Professional、または Express Edition の中から、同じシステム上に同時に 1 つのエディションのみをインストールできます。また、InstallShield 2015 DIM Editor を、InstallShield 2016 の任意のエディションが搭載されている同じマシン上にインストールすることはできません。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2016 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2016 Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。この両方を同じマシン上にインストールして、オートメーション

ン インターフェイスを使用する場合は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「Standalone Build と InstallShield を同一マシン上にインストールする」に記載されている、特殊な登録とアンインストールの考慮について参照してください。

プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2015 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2016 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2016 プロジェクトと InstallShield 2015 および以前のバージョンから InstallShield 2016 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield 2016 を使って以前のバージョンで作成されたプロジェクトを開くと、プロジェクトを新しいバージョンに変換するかどうかを質問するメッセージ ボックスが表示されます。[変換する]を選択すると、変換が行われる前に、例えば .775 (.ism プロジェクトの場合)または .2016 (.issuite プロジェクトの場合)というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .775 または .2015 を取り除いてください。InstallShield 2016 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意ください。

InstallShield 2015 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2016 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2016 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

スイート以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最低バージョンです。スイート (アドバンスド UI、およびスイート / アドバンスド UI プロジェクト タイプ) の場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最低バージョンです。

文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー / 警告番号	メッセージ	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていないときに発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

バグ修正

このセクションには、InstallShield の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています：

- [InstallShield 2016 SP2](#)
- [InstallShield 2016 SP1](#)
- [InstallShield 2016](#)

InstallShield 2016 SP2

次の問題が、InstallShield 2016 SP2 で修正されました：

問題番号	問題の概要
IOJ-1812110	 <p>プロジェクト・この情報は、InstallScript プロジェクトの種類に適用します。</p> <p>CMDLINE 変数を出力するとき、今回より次の値は含まれません：</p> <pre>-IS_temp -IS_OriginalLauncher:<path_to_setup.exe></pre> <p><path_to_setup.exe> は、セットアップ起動プログラムへの完全パスに解決しません。</p> <p>この動作は、ブートストラップ問題の修正が原因で、InstallShield 2016 SP1 (ファイル バージョン : 23.0.0.406) から発生しました。</p>

問題番号**問題の概要****IOJ-1812041**

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

InstallScript MSI または基本の MSI プロジェクトで作成される Setup.exe ファイルは、今回より /clone_wait パラメーターのサポートを含み、クローンされたセットアップ処理が完了するまで元のセットアップが終了しないようになりました。以前、InstallScript MSI または基本の MSI プロジェクトで作成された setup.exe がスイート プロジェクトに追加された場合、スイート パッケージで子プロセスが完了しなかったために、次のメッセージを表示するダイアログが表示されました。

セットアップのインストールでエラーが発生しました。インストールを続行しますか？

IOJ-1811205

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI

InstallScript および InstallScript MSI プロジェクトで作成された setup.exe ファイルは、今回より SUPPORTDIR ディレクトリから `_isuser_0x0000.dll` という名前の DLL をロードします。以前は、最初に言語固有ファイルが見つからなかった場合、通常は元の起動 EXE のパスである現在の作業ディレクトリ内で setup.exe による言語共通ファイルの検索が終了しました。

IOJ-1814315

InstallShield の署名機能は今回より、SHA-1 RFC 3161 のタイムスタンプ サーバーをサポートします。以前、InstallShield は SHA-1 RFC 3161 タイムスタンプサーバーで署名されたファイルをタイムスタンプすることができませんでした。

IOJ-1813455

InstallScript デバッガーは今回より、Script Files フォルダー以外の場所にある相対パスによって参照される .rul ファイルで、ブレークポイントおよび次のステートメント カーソルを表示します。以前、デフォルト Script Files フォルダー以外の場よにある追加 InstallScript .rul ファイルを挿入またはインポートするときに相対パスを使用すると、InstallScript デバッガーで表示エラーが発生しました。

問題番号**問題の概要****IOJ-1812954**

プロジェクト・この情報は、**トランスフォーム プロジェクト タイプに適用し
ます。**

トランスフォーム プロジェクトのダイレクト エディターで、右クリック コン
テキスト メニュー オプション [差分を元に戻す] または [行全体の差分を元
に戻す] が使用できるようになりました。このメニュー オプションは、
InstallShield 2009 から誤って削除されていました。

IOJ-1812919

プロジェクト・この情報は、**基本の MSI プロジェクトに適用します。**

InstallShield 2016 に移行した時、ReadyToInstall ダイアログの Back プッシュボ
タン コントロールの動作が変更されることが無くなりました。以前、“NOT
Installed AND _IsSetupTypeMin <> “Custom”” 条件を持つ NewDialog イベントが
SetupType ダイアログ以外のダイアログを表示するように構成された場合、
InstallWelcome ダイアログを表示するように変更されました。

IOJ-1812303

プロジェクト・この情報は、**トランスフォーム プロジェクト タイプに適用し
ます。**

トランスフォーム プロジェクトでフィールドが変更されたとき、対応するダ
イレクト エディター テーブルで変更済みのフィールドが緑色で強調表示され
ます。InstallShield 2015 SP1 から、変更済みのフィールドが緑色で強調表示さ
れなくなりました。

IOJ-1812243

プロジェクト・この情報は、**次のプロジェクトの種類に適用します：**

- ・ **基本の MSI**
- ・ **InstallScript MSI**

PowerShell カスタム アクションは、今回より、製品と共に PowerShell スクリ
プト ファイルがインストールされたときに実行します。以前、製品と共にイン
ストールされたスクリプトを使用するように構成された PowerShell カスタ
ム アクションが、ターゲット システム上のスクリプト ファイルを検出できま
せんでした。

IOJ-1812221

InstallScript デバッガーの [フォルダーを参照] ダイアログには、不足している
rul/h/InstallScript ファイルへのパスを入力するための “フォルダー” 編集
フィールドが表示されます。以前、このダイアログ ボックスには選択リスト
のみが表示されました。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1810308



プロジェクト・この情報は、*基本の MSI* および *InstallScript* プロジェクトに適用します。

基本の MSI プロジェクトおよび InstallScript MSI プロジェクトでは、今回より **表示アイコン** ([**全般情報**]ビュー) をコンマを含むフォルダーパスに含まれている .ico ファイルに設定できます。以前、コンマを含むパスが正しく処理されず、ビルドエラー -3204 (「アイコン用の指定ファイルから、指定されたインデックスでアイコンを抽出できません。」) が発生しました。

IOJ-1809878



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ *基本の MSI*
- ・ *DIM*
- ・ *InstallScript*
- ・ *InstallScript MSI*
- ・ *InstallScript* オブジェクト
- ・ マージ モジュール

InstallShield .NET スキャナーは、今回より .exe 依存関係を検出できます。以前、InstallShield は .dll 依存関係しか検出できませんでした。

IOJ-1806480



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ *基本の MSI*
- ・ *InstallScript MSI*

SQL PRINT ステートメントからのパーセント記号 (%) を含む出力が、今回より Windows Installer ログに正しく記述されます。以前、InstallShield は出力を記述しない、または最初のパーセンテージ記号までの切り詰められ出力がログに書き込まれました。

IOJ-1805815



プロジェクト・この情報は、*InstallScript* プロジェクトに適用します。

Microsoft Jet Database Engine 3.51 および Microsoft Jet Database Engine 4.0 マージ モジュールの両方を含む InstallScript プロジェクトをビルドしたときに InstallShield がクラッシュする問題が修正されました。

問題番号**問題の概要****IOJ-1804749**

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ *アドバンスド UI*
- ・ *スイート/アドバンスド UI*

アドバンスド UI およびスイート/アドバンスド UI プロジェクトで作成されたインストールが今回より、詳細ログにエラー コードを書き込みます。これを利用して、スイート インストールが終了条件に失敗したかどうかによってスイートの終了コードを確認することができます。以前、実際のエラー コードが詳細ログに書き込まれませんでした。

IOJ-1811355

プロジェクト・この情報は、スイート/アドバンスド UI プロジェクトに適用します。

アドバンスド UI およびスイート/アドバンスド UI プロジェクトで作成されたインストールは、今回より SETUP SUPPORT DIR ディレクトリ内のプログラムを起動する EXE アクションを実行できます。以前、スイート アクションがエラー 0x80070002 を返しました。

この動作は、ブートストラップ問題の修正が原因で、InstallShield 2016 SP1 (ファイル バージョン : 23.0.0.406) から発生しました。

IOJ-1817415

InstallScript MSI または基本の MSI プロジェクトで作成された setup.exe ファイルは今回より、setup.exe 名にスペースが含まれていても再起動時に再開します。以前は、RunOnce レジストリ値キーに追加の二重引用符が書き込まれました。そのため、再起動のあとインストールが再開することができませんでした。

この動作は、ブートストラップ問題の修正が原因で、InstallShield 2016 SP1 (ファイル バージョン : 23.0.0.406) から発生しました。

IOJ-1815849

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ *基本の MSI*
- ・ *InstallScript MSI*

基本の MSI または InstallScript MSI で /Clone_wait パラメーターおよび /L 言語パラメーターを使ったとき、setup.exe が予定通りに動作します。以前、基本の MSI または InstallScript MSI でこのコマンドライン パラメーターの組み合わせを使用すると、予期しない言語が表示されました。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1816527



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

InstallScript MSI または基本の MSI プロジェクトで作成された非圧縮 setup.exe ファイルは、今回より相対パスを使ってコマンドラインから起動されます。以前、この方法で起動するとセットアップ初期化ファイルを読み込めないなどの予期しない動作が発生しました。

この動作は、ブートストラップ問題の修正が原因で、InstallShield 2016 SP1 (ファイルバージョン: 23.0.0.406) から発生しました。

IOJ-1817530



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- DIM
- InstallScript
- InstallScript MSI
- InstallScript オブジェクト
- マージ モジュール
- MSI データベース
- MSM データベース
- QuickPatch
- トランスフォーム

ダイレクト エディターの Control テーブルで下矢印を押さえてスクロールをしたときに、IDE がクラッシュする問題が修正されました。

InstallShield 2016 SP1

次の問題が、InstallShield 2016 SP1 で解決されました：

問題番号**問題の概要**

IOJ-1802041

フレクセラ・ソフトウェア ナレッジベースに記事「[Best Practices to Avoid Windows Setup Launcher Executable Issues \(Windows セットアップ ランチャー実行可能ファイルの問題を回避するためのベスト プラクティス\)](#)」が追加されました。

IOJ-1799114



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript
- InstallScript MSI

InstallShield が .rul ファイルの場所にリファレンスを格納したときに、ファイルへのパスが失われるという、インクルード ファイル処理で発生する問題が解決されました。これによって、IDE ビルド出力でエラーを報告するという問題が発生し、デバッガーが .rul ファイルの場所を求める確認メッセージを表示しました。この修正により、デバッガーが参照される .rul ファイルを正しく見つけることができるようになりました。

IOJ-1781071



プロジェクト・この情報は、トランスフォーム プロジェクトに適用します。

トランスフォーム (.mst ファイル) を編集するとき、ダイレクト エディター内でベース パッケージと適用されるトランスフォームとの違いがアイコンを使って強調表示されます。InstallShield 2016 では、これらのアイコンが正しく表示されませんでした。この問題は解決されました。

IOJ-1780767



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

リリース ウィザードの “詳細” 設定にある **[Autorun.inf を生成]** オプションが選択されていない場合、Autorun.inf ファイルは作成されません。以前、プロジェクト アシスタントを使って CD-ROM リリースをビルドした時、**[Autorun.inf を生成]** オプションが選択されていない場合でも、Autorun.inf ファイルが作成されました。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1779971



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

強制終了カスタム アクションの “プロセス” 設定に追加されたエントリは、カスタム アクション ウィザードを使ってカスタム アクションを変更したときに正しく保持され、カスタム アクション ウィザードに “プロセス” 設定フィールドが含まれます。以前、[新しい強制終了] カスタム アクションを作成してから、 “プロセス” 設定にエントリを追加した場合、カスタム アクション ウィザードを使ってカスタム アクションを変更すると、 “プロセス” 設定に追加された変更が失われました。

IOJ-1778034



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript
- InstallScript MSI

InstallShield 2016 は今回より、**setup.rul** ファイルを 1 つ以上の .rul ファイルと共にコンパイルする際、2 番目のスクリプトでエラーが発生したときに、以前の InstallShield リリースと同じ -4370 ビルド エラー「InstallScript のコンパイルでエラーが発生しました。」を表示します。

IOJ-1774410



プロジェクト・この情報は、スイート/アドバンスド UI プロジェクトに適用します。

InstallShield の古いバージョンから移行された スイート/アドバンスド UI プロジェクトで SQLLogin 定義済みウィザード ページを追加した後、SQL ログインウィザード文字列が正しく表示されます。SQL 関連文字列がプロジェクトに追加され、その値が解決されて、ウィザード ページに表示されます。以前、ウィザード ページが正しく解決された名前ではなく、文字列 ID (たとえば、IDS_SQLLOGIN_SERVER) を表示しました。

問題番号

問題の概要

IOJ-1774403



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript MSI
- ・ マージ モジュール

InstallShield は、エラー -7354「文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません」のインスタンスを限定する内部処理が改良されました。

IOJ-1774042



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI
- ・ MSI データベース

プロジェクト アシスタントを使って作成した次の .NET Framework バージョンのインストール条件が正しく動作するように修正されました：

- ・ .Net Framework 4.5.1
- ・ .Net Framework 4.5.2
- ・ .Net Framework 4.6.1
- ・ .Net 4.6 (完全版)

IOJ-1773408

InstallShield ヘルプ ライブラリの次のセクションにあるテーブルに、**SS_REALSIZECONTROL** の説明が追加されました：

- ・ ビットマップ、アイコン、およびテキスト領域コントロールのその他のウィンドウ スタイル
- ・ 行コントロールのその他のウィンドウ スタイル

IOJ-1773250

InstallShield 2016 では、ダイレクト エディターで、次のテーブル内のエントリ同士の関係が正しく表示されるように更新されました：

- ・ AppSearch と RegLocator
- ・ IniLocator、DrLocator、および CompLocator

以前、ダイレクト エディターの参照テーブルセクションには、これらのテーブルの適切な関係が正しく表示されませんでした。

IOJ-1802350

InstallShield ヘルプ ライブラリの「[ファイルを開く] ダイアログを起動する」トピックが改訂され、ファイルの参照ダイアログを使用するときに、ダイアログの MSI プロパティ値を更新するための追加手順 (2n から 2p) が含まれていません。

IOJ-1807101



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript MSI
- ・ マージ モジュール

ショートカットの名前や文字列 ID など、ローカライズ済みの値はビルド時に検証が行われ、次のビルド警告およびエラーが発生する可能性があります：

- ・ -7355: 文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。
この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
- ・ -7354: 文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。
このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていないときに発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

以前はこれらの値は検証されなかったため、無効な文字列は、それまでに警告が無かったにもかかわらず、実行時に誤作動が発生しました。これらの文字列が InstallShield 2016 SP1 で使用される前に言語をインポート済みのプロジェクトの場合、文字列エディタを使って手作業で修正する必要があります。

IOJ-1804947



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI

Settings.xml 内のタイムスタンプ情報をパッチのビルドに使用することができません。以前、パッチ ビルドの署名コードが Settings.xml のタイムスタンプ サーバー情報を正しく読み取りませんでした。

問題番号

問題の概要

IOJ-1801041



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- DIM
- InstallScript MSI
- マージ モジュール

InstallScript MSI プロジェクトで [テキスト ファイルの変更] を使用してテキスト ファイルを変更した場合、変更するテキストファイルが System32 または System64 フォルダーにある場合でも、テキスト ファイルが変更されます。以前、これらのフォルダー内のテキストファイルが、[テキスト ファイルの変更] を含む InstallScript MSI プロジェクトでアップデートされませんでした。

IOJ-1799427

「FlexNet ライセンス サーバーのシステム要件」セクションにある、サポート対象のオペレーティング システムの一覧が更新されました (<http://resources.flexerasoftware.com/instructions/productlicensing/en/installshieldconcurrent.htm>)。

IOJ-1781229

InstallShield 2016 Standalone Build セットアップが更新され、Windows Vista、Windows Server 2008 以降のみがサポートされています。InstallShield 2016 Standalone Build は、サポート対象の Microsoft Windows にのみインストールが可能です。

IOJ-1801258

InstallShield ヘルプ ライブラリの「プロパティの取得と設定」および「Windows Installer API 関数」トピックに次の記述が追加されました。



メモ・プロパティ値が 1024 文字を超える場合、適切なバッファ サイズを指定する必要があります。この状況でコードを書く場合の例については、「プロジェクトを InstallShield 2011 以前からアップグレードする」トピック内の「InstallScript カスタム アクションで呼び出される一部の MSI API の動作を変更する」セクションを参照してください。

IOJ-1780914

日本語版 InstallShield ヘルプ ライブラリの SYSINFO メンバー **SYSINFO.bIsWow64** のミススペルが訂正されました。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1780766



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

スイート ダイアログの [チェック済みリストボックス] コントロールが、[変更アイテム] イベントを実行します。以前、[チェック済みリスト ボックス] 内のアイテムが選択されているとき、プロパティが常に作成されませんでした。

IOJ-1773398

InstallShield ヘルプ ライブラリの「その他のウィンドウ スタイル」ダイアログボックス」トピックのハイパーリンクが、対応するトピックに正しくリンクするように更新されました。以前、このページに含まれる一部のハイパーリンクが、正しいリンク先を参照していませんでした。

IOJ-1780360



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI

以前、PowerShell スクリプトで Import-Module コマンドレットを呼び出すと、一部のインスタンスで「オブジェクト参照がオブジェクト インスタンスに設定されていません。」エラーを発生して失敗しました。この問題は解決され、PowerShell スクリプトが正しく実行します。

IOJ-1780731



プロジェクト・この情報は、基本の MSI プロジェクトに適用します。

MSI/MSM オープンウィザードには、既存のインストール プロジェクト (.msi ファイル) やマージ モジュール (.msm ファイル) を、InstallShield インストール プロジェクト (.ism ファイル) に変換するためのツールが用意されています。元の .msi ファイルに InstallScript カスタム アクションが含まれているとき、[MSI/MSM を開く] ウィザードを使って .msi ファイルを再ビルドしたとき、次のエラーを発生することなく正しくインストールが行われます：

エラー 2721 カスタム アクション NewCustomAction1 が Binary テーブル ストリームに見つかりません。

IOJ-1779170

Property テーブル内に新しく作成されたプロパティの値を変更したときに、InstallShield がクラッシュする問題が解決されました。以前は、このシナリオで C++ 実行時エラーが発生しました。

問題番号	問題の概要
IOJ-1780087	InstallShield ヘルプ ライブラリの「DISK1SETUPEXENAME」トピックが更新され、DISK1SETUPEXENAME が InstallScript プロジェクト タイプでの使用を目的とすることが記述されています。
IOJ-1803062	 <p>プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本の MSI • InstallScript • InstallScript MSI <p>ビルトイン Windows Server 2016 前提条件が前提条件エディターに追加されました。[前提条件を実行するプラットフォームを選択します]ドロップダウンリストの[前提条件]ダイアログ ボックスに、次のプラットフォームが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2016 (すべて) • Windows Server 2016 64 ビット (すべて) • Windows Server 2016 64 ビット (x64)
IOJ-1803451	ISWiAutomation.dll のファイル プロパティ詳細が更新されました。以前、このファイルに表示されるプロパティの詳細が不完全な状態でした (詳細は、InstallShield 2016 システム フォルダー内で、ファイル エクスプローラーにある ISWiAutomation.dll を右クリックすると表示される、[プロパティ]を選択すると、[詳細] タブに表示されます)。
IOJ-1777700	Visual Studio でビルドされたプロジェクトの一部で発生した致命的なビルド エラー -4340 (内部ビルド エラー) の原因が解決されました。
IOJ-1774046	 <p>プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本の MSI • DIM • InstallScript MSI • マージ モジュール <p>InstallShield は今回より、エラー -7354 (「文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません」) で確認可能な文字列を生成します。</p>
IOJ-1777586	InstallShield ヘルプ ライブラリの「DialogSetInfo」トピックで、「DLG_INFO_ALTIMAGE_HIDPI」の説明に詳細が追加されました。
IOJ-1780797	修正プログラム IOJ-1745445 に含まれていた、DAO.DBEngine.OpenDatabase の呼び出しが失敗する問題は、InstallShield 2016 SP1 で解決されています。

問題番号**問題の概要****IOJ-1777822**

プロジェクト・この情報は、*InstallScript* プロジェクトの種類に適用します。

InstallShield 2015 SP1 Hotfix IOJ-1745445 または InstallShield 2016 を使ってビルドされた InstallScript プロジェクトでショートカットが正しく作成されます。以前、Vista または Windows Server 2008 マシン上で実行したとき、ショートカットを作成しようとした InstallScript プロジェクトが InstallScript セットアップ起動プログラム Unicode エラーを発生しました。

IOJ-1777421

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI

InstallShield ヘルプ ライブラリの「アドバンスト UI およびスイート/アドバンスト UI プロジェクト」トピックに次の記述が追加されています：

アドバンスト UI およびスイート/アドバンスト UI インストールには、Windows Vista 以降または Windows Server 2008 以降が必要です。

IOJ-1777616

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI

スイート プロジェクトの UI コントロールで、インストール中に InstallationFeatures ウィザード ページに機能を表示するかどうかを指定するための機能の“表示”設定で発生した問題が解決されました。以前、InstallShield 2016 で“表示”設定を使うと予期しない結果が発生しました。

IOJ-1771076

プロジェクト・この情報は、*InstallScript* プロジェクトの種類に適用します。

Windows 7 マシンにおいて一部の InstallScript セットアップがクラッシュするという、環境固有の問題が解決されました。

問題番号**問題の概要****IOJ-1771076**

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

Windows 7 マシンにおいて一部の InstallScript セットアップがクラッシュするという、環境固有の問題が解決されました。

IOJ-1753470

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

スイート プロジェクトで、コンテナにインストールを行う圧縮済み MSI パッケージが動作しなくなる問題が解決されました。

InstallShield 2016

InstallShield 2016 では、次の問題が解決されています：

問題番号	問題の概要
IOJ-1760351	<p>次の Microsoft SQL Server 2014 前提条件のダウンロードに関連付けられた .exe ファイルは、次のように更新されています：</p> <ul style="list-style-type: none">• Microsoft SQL Server 2014 Express RTM (x86 & x64Wow)— 以前のバージョンの InstallShield は、前提条件として SQLEXP32_x86.exe をダウンロードしましたが、今回より SQLEXP_x86.exe をダウンロードします。• Microsoft SQL Server 2014 Express RTM (x86)— 以前のバージョンの InstallShield は、前提条件として SQLEXP_x86.exe をダウンロードしましたが、今回より SQLEXP32_x86.exe をダウンロードします。 <p>この更新の結果、正しいプラットフォーム ファイルがダウンロードされ、正しいオペレーティング システム条件が確認されるようになりました。</p> <p>Microsoft が提供する次のインストール情報には、各プラットフォームで使用する正しいファイル名が記述されています。</p> <p> <i>メモ</i>・Microsoft SQL Server 2014 Express には、32 ビット バージョンと 64 ビット バージョンの両方が含まれています。SQLEXP32_x86 は、より小型のパッケージですが、使用できるのは 32 ビット オペレーティング システムに SQL Server 2014 Express をインストールする場合だけです。SQLEXP_x86 は同じ製品ですが、32 ビットおよび 64 ビット (WoW) オペレーティング システムの両方にインストールできます。SQLEXP_x64 はネイティブの 64 ビット SQL Server 2014 Express で、64 ビット オペレーティング システムのみにインストールできます。これらのパッケージの違いはこれだけです。Microsoft® SQL Server® 2014 Express は IA64 システムではサポートされていません。</p>
IOJ-1756569	<p> プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：</p> <ul style="list-style-type: none">• アドバンスト UI• スイート/アドバンスト UI <p>[@Feature(MyFeature).Description] フォーマットのスイート オブジェクト式は、今回より MyFeature のローカライズされた説明を表示します。以前は空白文字列が表示されました。</p>

IOJ-1767090



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI
- ・ マージ モジュール
- ・ スイート / アドバンスド UI

定義に <VSSolutionFolder> を使用するカスタム パス変数 (たとえば、NewCustomPathVariable=<VSSolutionFolder>%MyFolder) は、Microsoft Build エンジン (MSBuild) を使ってソリューションをビルドしたときに正しく解決します。以前は、これらのパス変数が無効な文字列 <VSSolutionFolder> を含むリテラルパスに解決しました。

IOJ-1765530



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI

[参照 - データベース サーバー] および [参照 - データベース カタログ] ダイアログに表示される SQLBrowse ダイアログ テキストが次のように更新されました：

- ・ 以下のサーバー一覧から、ターゲットにするデータベース サーバーを選択してください。
- ・ 以下のカタログ名一覧から、ターゲットにするデータベース カタログを選択してください。

IOJ-1765511



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI

[再配布可能ファイル] ビューの [詳細表示] セクションは、マージ モジュールにアンパサンドを持つ名前のファイルが含まれるとき、正しく表示するように更新されました。以前はこのシナリオで、[詳細] ペインにエラー メッセージのみが表示されました。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1759079



プロジェクト・この情報は、スイート/アドバンスド UI プロジェクトに適用します。

スイート/アドバンスド UI プロジェクトは、セッションの再ロードが必要であることを通知する Windows 機能を正しくインストールします。以前は、スイート/アドバンスド UI がエラーを通知して、パッケージのインストールを拒否しました。

IOJ-1769950



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI
- ・ InstallScript オブジェクト
- ・ マージ モジュール

InstallShield ヘルプ ライブラリの「ISWiRelease オブジェクト」トピック内で **CopyToFolder** の説明が更新され、**CopyToFolder** オブジェクトの使用に関連付けられた有効なプロジェクトの種類から、基本の MSI、InstallScript MSI、およびマージ モジュールが削除されました。基本の MSI、InstallScript MSI、およびマージ モジュール プロジェクトの場合、**CopyToFolder** の代わりに **DistributeLoc** プロパティを使って、フォルダーにリリースを配布できます。

IOJ-1758249



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI
- ・ InstallScript オブジェクト
- ・ マージ モジュール

プロジェクト ファイルをバイナリから XML フォーマットに切り替えた後にプロジェクトを再ロードしたとき、文字列エディターに入力された複数行のエントリが正しく保持されます。

以前、ファイルを XML フォーマットに切り替えてから閉じ、プロジェクトを再び開くと文字列エントリが 1 つの行に縮小されました。

IOJ-1757539



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI
- ・ InstallScript オブジェクト
- ・ マージ モジュール
- ・ スイート/アドバンスド UI

ショートカットの名前など、ローカライズ済みの値はビルド時に検証が行われ、ビルド警告およびエラーが発生する可能性があります。

- ・ -7355: 文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。
この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
- ・ -7354: 文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。
このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていないときに発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

以前はこれらの値は検証されなかったため、無効な文字列は、それまでに警告が無かったにもかかわらず、実行時に誤作動が発生しました。

IOJ-1756439、
IOJ-1744882

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ マージ モジュール
- ・ MSI データベース
- ・ MSM データベース
- ・ トランスフォーム

長い識別子を持つダイアログ (MaintenanceWelcome ダイアログなど) やコンポーネントをエクスポートすると以前はエラーが発生しましたが、今回より正しくエクスポートすることができます。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1756316



プロジェクト・この情報は、InstallScript MSI プロジェクトに適用します。

InstallScript MSI プロジェクトにサポート対象言語としてイタリア語を追加したとき、文字列エディター テーブルに正確なエントリが入力されます。以前、InstallScript MSI プロジェクトでイタリア語を使用すると、予期しない文字列 ID が入力されました。

IOJ-1755786

デジタル署名にタイムスタンプが正しく作成されなかった場合、InstallShield はビルド警告メッセージ -1027 を表示します。InstallShield 2015 以前は、ビルドが署名のタイムスタンプ作成に失敗した場合、ビルド警告 -1027 ビルドが発生しました。ところが、InstallShield 2015 では、作成されるビルドで署名にタイムスタンプが含まれていない場合でも、警告またはエラーが表示されませんでした。

IOJ-1755473



プロジェクト・この情報は、トランスフォーム プロジェクトに適用します。

ダイアログをトランスフォームに追加してから、そのダイアログ上のコントロールにイベントを追加することができます。以前は、このシナリオでクラッシュすることがありました。

IOJ-1755060



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI

前提条件エディターは、LocalFile 定義の前提条件へのパスを定義する相対パスを使用することができます。そのような前提条件をスイート/アドバンスト UI またはアドバンスト UI プロジェクトにインポートしたあと、InstallShield がビルド時に正しくパスを解決します。以前、相対パスを含むように編集された .prq ファイルをインポートすると、予期しないエラーが発生しました。具体的には、[パッケージ ファイル] 内の [パッケージ] ビューで、[LinkTo] 列が予期しない [LocalFile] パスを表示したため、スイートビルド エラー「-7232: ファイルが見つかりません」が発生しました。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1754678



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

InstallShield では、MsiHiddenProperties に含まれるプロパティの値がログに書き込まれることが禁止されています。これには、以下の状況が含まれます：

- プロパティが .NET インストーラー クラスの引数として使用されている。
- インストールに機能前提条件が含まれる。

以前は、ここに箇条書きされている状況で InstallShield がそのようなプロパティの値を明確なテキストでログ記録しました。

IOJ-1754769、
IOJ-1754678

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

InstallShield では、MsiHiddenProperties に含まれるプロパティの値がログに書き込まれることが禁止されています。これには、以下の状況が含まれます：

- プロパティが .NET インストーラー クラスの引数として使用されている。
- インストールに機能前提条件が含まれる。

以前は、ここに箇条書きされている状況で InstallShield がそのようなプロパティの値を明確なテキストでログ記録しました。

IOJ-1754606



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

64 ビット システムで、64 ビット DLL をターゲットとする標準 DLL カスタムアクションが、64 ビット限定のプロジェクトで正しく実行します。(32 ビットバージョンの DLL を使用すると、プロジェクトが予定通りに動作しました。)以前は、一部の 64 ビット標準 DLL カスタムアクションが 64 ビット限定のプロジェクトで正しく実行しました。

IOJ-1754522



プロジェクト・この情報は、*InstallScript* プロジェクトに適用します。

InstallShield ヘルプ ライブラリの「任意のコンピューターでのインストールのデバッグ」が更新され、Visual Studio 2012 がインストールされていないデバッグ マシン上には、再配布可能ファイル Visual C++ Redistributable for Visual Studio 2012 が必要である可能性について説明されています。Visual C++ 再配布可能パッケージは、Visual Studio 2012 を使って開発されたアプリケーション (InstallShield など) を実行するために必要な Visual C++ ライブラリのランタイム コンポーネントをインストールします。

IOJ-1754277、
IOJ-1754278、
IOJ-1753445

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ 基本の MSI
- ・ *InstallScript*
- ・ *InstallScript MSI*
- ・ スイート/アドバンスド UI

ターゲット システム上に Microsoft Visual C++ 2015 再配布可能パッケージ (x86) または Microsoft Visual C++ 2015 再配布可能パッケージ (x64) の新しいバージョンが既にインストール済みである場合、InstallShield がこれらをインストールしようと試みるのがなくなりました。以前これらのパッケージは、新しいバージョンが既にマシン上にインストール済みである場合でも、再配布可能ファイル ウィンドウに表示される前提条件リストに追加されました。

また、Microsoft Visual C++ 2015 再配布可能パッケージ (x86) がシステムにインストール済みであるとき、Microsoft Visual C++ 2015 再配布可能パッケージ (x64) 前提条件が正しく起動されます。以前、Microsoft Visual C++ 2015 再配布可能パッケージ (x86) がシステムにインストール済みであるとき、Microsoft Visual C++ 2015 再配布可能パッケージ (x64) 前提条件がスキップされました。

IOJ-1754269



プロジェクト・この情報は、*QuickPatch* プロジェクトに適用します。

QuickPatch プロジェクトで [パッチするファイル] をダブルクリックすると表示される [ファイルの選択] ウィンドウのサイズが変更可能となりました。これによって、ウィンドウで情報を確認しやすくなりました。以前、このウィンドウのサイズを変更することができなかったため、固定ウィンドウ内で列の幅を広げたり、スクロールバーを使ったりしてウィンドウの内容を見る必要がありました。

IOJ-1753850



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript MSI
- ・ マージ モジュール
- ・ MSI データベース
- ・ MSM データベース
- ・ トランスフォーム

新しいコンポーネントが作成されると、コンポーネントのインストール先の CreateFolder テーブルにエントリが追加されます。コンポーネントにファイルを追加すると、CreateFolder テーブルのエントリが削除されます。InstallShield 2015 では、新しいコンポーネントにファイルが追加されたときに、関連する CreateFolder テーブルのエントリが削除されないという予期しない動作が起りました。

IOJ-1753265



プロジェクト・この情報は、InstallScript プロジェクトに適用します。

新しい InstallScript プロジェクトを作成して、インストールが Windows XP SP3 で実行する場合、インストール中に [セットアップの種類] ダイアログで選択された [カスタム] オプションが選択されると、機能の選択ダイアログ ボックスに機能を選択または選択解除することができるチェックボックス付きの機能の一覧が正しく表示されます。以前、InstallShield 2015 SP1 にホットフィックス IOJ-1745445 を適用している環境で InstallScript プロジェクトを作成すると、カスタム インストール中の機能選択ダイアログでチェックボックスが表示されませんでした。

IOJ-1753110



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript MSI
- ・ マージ モジュール
- ・ MSI データベース
- ・ トランスフォーム

ユーザー アカウントを **SYSTEM** または **NT AUTHORITY\SYSTEM** として指定するとき、InstallShield でスケジュール タスクを作成することができます。スケジュール タスクが正しく作成されます。以前はエラーが発生したため、スケジュール タスクが作成されず、インストールがロールバックしました。

問題番号

問題の概要

IOJ-1752427



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript MSI
- ・ マージ モジュール

PowerShell カスタム アクションが MSI ログにエラーの様で紛らわしいメッセージを書き込むことがなくなりました。以前は、カスタム アクションの初期化中に一連の「... を解決できませんでした」メッセージが MSI ログに含まれました。

IOJ-1752004

ユーザーが [サブフォルダーを含める] オプションを使ってダイナミック リンク ファイルを選択したとき、InstallShield は、[ファイルとフォルダー] ビューに正しくファイルを表示します。このシナリオでは、サブフォルダー内にある InstallShield 2015 ファイルも、親フォルダー内に表示され、ファイルの重複が発生しました。



メモ・これは、表示のみに影響する問題でした。作成されるインストール パッケージは、重複なしに正しい数のファイルをインストールしました。

IOJ-1751807



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI
- ・ MSI データベース
- ・ トランスフォーム

カスタム アクション ウィザードは、今回よりすべてのインスタンスで正しくシーケンス情報を保持します。以前、[シーケンスに挿入] パネルでカスタム アクション ウィザードを使ってカスタム アクションの編集を行うと、アクションが UI シーケンス内の最初のアクションとしてシーケンスされたとき、カスタム アクション ウィザードのシーケンスには表示されませんでした。カスタム アクションが最初のアクションとしてシーケンスされなかった場合、あるいは [実行] シーケンスの最初のアクションとしてシーケンスされた場合、この問題は発生しませんでした。ウィザード内でもう一度 UI シーケンスにアクションを追加しなかった場合、ウィザードが完了した時にアクションが UI シーケンスから削除されました。

IOJ-1751784



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

パッケージが連鎖し、単一のトランザクション処理として扱われるように、複数のパッケージをトランザクション処理を使ってインストールするとき、ロールバック時に実行するようにスケジュールされた IS アクション (xml ファイルの変更、スケジュール タスク、ネットワークの共有、テキスト ファイルの変更、SQL スクリプト実行など) を含めると、ロールバック スクリプトが正しく実行されます。以前は、MSI ファイルが同じトランザクション内に存在しない場合に、別のスクリプトが失敗した場合、複数パッケージのトランザクションを使用すると、ロールバック時に実行するスクリプトが無視されました。

IOJ-1751299



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- アドバンスド UI
- スイート/アドバンスド UI

選択された言語が、マシンの言語設定と一致しなかった場合でも、スイートパッケージに含まれるウィザード テキストが再起動後に正しく表示されます。以前は、再起動後にインストールを再開するとき、一部のローカライズ済み文字列の代わりに、ウィザードでクエスチョンマークが表示されました。

IOJ-1749081



プロジェクト・この情報は、QuickPatch プロジェクトに適用します。

特に長い (関連する列の長さ仕様を超える) 識別子を持つマージ モジュールが、"QuickPatch の簡素化" 設定に [いいえ] が選択されている QuickPatch プロジェクトのベース インストールに含まれているとき、実行時に予期しないエラーが発生する問題が解決されました。マージ モジュールまたはモジュールがベース インストールおよびその後続く QuickPatch プロジェクトに含まれていない場合に、この問題が発生しました。以前、これらの種類のマージモジュールがベース インストールに含まれていない場合、"QuickPatch の簡素化" 設定に [いいえ] が選択されたとき、ランタイム エラーが表示されました。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1748476



プロジェクト・この情報は、*InstallScript* プロジェクトに適用します。

InstallShield 2014 を使って作成された *InstallScript* プロジェクトを、ダブルクリックして開くことができます。InstallShield 2016 がプロジェクトを正しくアップグレードして、再びダブルクリックで開くことができます。以前、InstallShield 2015 SP1 を使って InstallShield 2014 で作成された .ism ファイルをダブルクリックで開こうとすると、予期しない動作が発生しました。

IOJ-1748317



プロジェクト・この情報は、スイート/アドバンスド UI プロジェクトに適用します。

ES_MULTILINE の "スタイル" 設定を使用する TextBox が、すべての行を正しく指定されたプロパティに格納します。以前は、**ES_MULTILINE** の "スタイル" 設定で **True** が指定されているにもかかわらず、プロパティの値の最初の行のみが表示されました。

IOJ-1748131



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ 基本の MSI
- ・ *InstallScript*
- ・ *InstallScript MSI*
- ・ スイート/アドバンスド UI

次の InstallShield 前提条件に構成された条件が訂正されています：

- ・ Microsoft .NET Framework 4.0 Client

このアップデートの結果、.NET 4.0 以降がインストール済みの Windows Server 2008 R2 システム上に前提条件がインストールされます。

IOJ-1745976



プロジェクト・この情報は、*InstallScript* プロジェクトに適用します。

CtrlGetMLEText() を使って、カスタム ダイアログの複数行編集フィールド コントロールの内容を正しく読み出します。以前、CtrlGetMLEText() を使って文字列入力を読み出すと、破損した文字が返されるか、文字が足りない場合があります。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1745656



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI

SQL スクリプトの実行がアップデートされ、正しく動作します。InstallShield 2015 では、同じスクリプトが InstallShield 2014 で動作するのにもかかわらず、くつかのインスタンスで一部の SQL スクリプトが実行しませんでした。

IOJ-1745647



プロジェクト・この情報は、QuickPatch プロジェクトに適用します。

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI

QuickPatch プロジェクトで、サイドバイサイドレジストリキーを正しく変更およびアクセスすることができます。以前、サイドバイサイドレジストリキーにアクセスしようとすると、クラッシュしました。

IOJ-1744694



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI

スイートプロジェクトで機能の説明を文字列プロパティ (ISFeatureDescription) に設定すると、複数の言語をスイートに追加して、各言語に対して機能の説明をローカライズしたとき、今回より正しくローカライズされます。以前、デフォルトの英語文字列が機能の説明に表示されました。

IOJ-1743567



プロジェクト・この情報は、InstallScript プロジェクトに適用します。

InstallScript プロジェクトを使って、最大値 (0xFFFFFFFF) を含み、整数値に DWORD 値を正しく設定することができます。以前は、InstallShield がレジストリ DWORD 文字列を誤った整数値に変換しました。

IOJ-1743313



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI
- ・ InstallScript オブジェクト
- ・ マージ モジュール
- ・ MSI データベース
- ・ MSM データベース
- ・ トランスフォーム

[1 つ上のフォルダーを開く] のファイル リスト コントロールが、ダイナミック リンク ファイルに使用できます。以前、ファイルをコンポーネントにダイナミックにリンクしたとき、このオプションを選択することができませんでした。

IOJ-1743047



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート / アドバンスド UI

スイートを新しいバージョンの InstallShield に移行すると、スイートに追加されている任意の Windows 機能がアップデートされ、InstallShield の移行先の新しいバージョンがサポートするのと同じオペレーティング システムをサポートします。以前、スイートに追加されている Windows 機能が正しくアップデートされませんでした。

IOJ-1741079、
IOJ-1742968

InstallShield 2015 より、インストールおよびファイルをビルド時に署名する際、SHA-256 ハッシュ アルゴリズムを使ったデジタル証明書を使用できるサポートが追加されました：

- ・ 自動的に証明書からハッシュ アルゴリズムを一致させます。
- ・ 使用される証明書の種類を問わず、常に SHA-1 または SHA-1 を使って署名済みファイルのダイジェストにアルゴリズムを指定できます。

以前、ビルドが署名のエラー -1027 を出して失敗するか、古いバージョンの Windows で署名が検証されませんでした。

問題番号

問題の概要

IOJ-1742920



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

スイート プロジェクトでは、今回より **Settings.xml** を使ってビルド警告を抑制できます。別のプロジェクトではこの機能が以前から使用できました。

IOJ-1742556

InstallShield は Visual Studio 2013 Update 5 との統合をサポートします。以前、InstallShield 2015 SP1 と Visual Studio 2013 Update 5 とを統合すると、ソリューションをクリックして様々なビューにアクセスしたり、Visual Studio 2013 Update 5 を使ってビルドを行うことができませんでした。

IOJ-1742525

次の前提条件のローカル ファイルへのパスが、定義済みの検索パス変数 <ISProductFolder> を使ったものに更新されました：

- ・ Microsoft Visual C++ 2013 再配布可能パッケージ (x86)
- ・ Microsoft Visual C++ 2013 再配布可能パッケージ (x64)

以前、ローカル ファイルへのパスに誤りがあり、再配布可能パッケージ ファイルが見つからなかったため、InstallShield Standalone Build を使ったビルドでエラーが発生しました。

IOJ-1742214



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI

InstallShield ヘルプ ライブラリの「SQL Server データベースのデフォルトの TCP/IP ネットワーク ライブラリを別のプロトコルで上書きする」トピックが更新され、SQL サーバー データベースのデフォルト TCP/IP ネットワーク ライブラリを異なるプロトコルでオーバーライドする新しい方法について説明します。この方法では、TCP/IP ネットワークのオーバーライド モジュールを指定するのに DBSSOEN を更新して、Property テーブルの IS_SQLSERVER_NETLIB_MS フィールドのデフォルト値 Network Library=DBSSOEN を編集します。以前、InstallShield はこの値を ISSQLDBMetaData テーブルに格納しました。

IOJ-1742125

InstallShield は、VSSolutionFolder でソリューション名に括弧が含まれる場合、Microsoft Visual Studio Team Foundation Server または MSBuild で正しくビルドを行います。MSBuild は括弧を含み特殊文字をエスケープするため、括弧を含む VSSolutionFolder パスがビルド時に失敗しました。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1742112



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI

スイート プロジェクトダイアログのリッチ テキスト ボックス コントロールに含まれるハイパーリンクは、新しいウィンドウでリンクを正しく開きます。以前、スイート プロジェクト ダイアログのリッチ テキスト ボックスのコントロールに含まれるハイパーリンクが無視されました。

IOJ-1742088



プロジェクト・この情報は、InstallScript MSI プロジェクトに適用します。

InstallShield では、InstallScript MSI SQL スクリプト実行パフォーマンスが改良されました。以前は、同じ SQL スクリプトが InstallScript プロジェクトよりも基本の MSI プロジェクトで早く実行しました。

IOJ-1741435



プロジェクト・この情報は、InstallScript MSI プロジェクトに適用します。

”InstallScript ユーザーインターフェイス タイプ” 設定が [新しいスタイル] に設定された InstallScript MSI プロジェクトから作成された setup.exe が、今回より正しくインストールします。以前、[新しいスタイル] に設定すると、MsiExec.exe コマンドライン パラメーターが .msi に正しく渡されなかったため、Windows Installer エラー 1639 が発生しました。

IOJ-1741231



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI

スイート ISWiSuiteRelease オブジェクトに BuildErrorCount および BuildWarningCount プロパティのサポートが追加されたため、ビルドが成功したかどうかを判断するのに使用できます。以前は複雑なワークアラウンドしかありませんでした。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1740777



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ MSI データベース
- ・ トランスフォーム

アップグレード コードに誤ってヌル GUID を指定できないように、[アップグレード]ビューの[共通]タブにある[アップグレード コードを共有している製品]オプションが、MSI データベース プロジェクトおよびトランスフォーム プロジェクト タイプで無効になりました。以前、[アップグレード コードを共有している製品]オプションが選択されているために、Upgrade テーブルに実際のアップグレード コードではなく、ヌル GUID が含まれました。

IOJ-1740227

同じ証明書ストアに類似するサブジェクトを持つ 2 つのデジタル証明書が存在する場合、選択された証明書のみがセットアップの署名に使用されます。以前、このシナリオでは、同じインスタンスに誤った証明書を使って署名が行われたため、矛盾した結果が発生しました。

IOJ-1740223、
IOJ-1739837

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI

次の日本語の翻訳が更新されました：

- ・ [このパッケージのファイルを追加する] ダイアログボックスの [隣接するファイルおよびサブフォルダーのファイルを追加] 設定
- ・ スイート プラットフォームの [検出条件] ドロップダウン オプションで、オペレーティング システム一覧の「以降」部分(たとえば、Windows 8.1 以降)

IOJ-1739985



プロジェクト・この情報は、基本の MSI プロジェクトに適用します。

Windows Installer (.msi) を InstallShield プロジェクト (.ism) に変換した後、InstallShield でサポートされていない言語のマシンで [一般情報] の “セットアップ言語” 設定を変更することができます。以前、これを行うと IDE がクラッシュしました。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1739861



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

スイート プロジェクトの 2 番目のウィンドウにリッチ テキスト ボックス コントロールを追加した場合、インストール中に複数回アクセスが行われた際、2 番目のウィンドウには常にリッチ テキスト ボックスのテキストが表示されます。以前、2 番目のウィンドウを 1 度開いたあとに再び開くと、にリッチ テキスト ボックスの内容が表示されないことがありました。

IOJ-1739542



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

スイート プロジェクトでは、ユーザーが代替ライセンス ページの最後までマウスホイールでスクロールさせたときに、[次へ] ボタンが自動的に有効化されています。以前、これはスクロール バーをドラッグしたとき、スクロール バーのメニューオプションを使用したとき、またはキーを押したときだけ一貫して動作しました。

IOJ-1739345



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ トランスフォーム

InstallShield では、SQL Server ODBC ドライバーを基本の MSI またはトランスフォームプロジェクトに追加、保存し、警告またはエラーなしでプロジェクトをビルドすることができます。以前は、特定の ODBC ドライバーのレジストリ設定によって、これらのシナリオで ODBC ドライバーに関連する警告およびエラーが発生しました。

問題番号**問題の概要**

IOJ-1739343



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM

基本の MSI プロジェクトで、1 つ以上の機能の一部として同じ DIM リファレンスを使用するように構成されている場合、[DIM リファレンス]ビューを使って、DIM リファレンスが正しく複数の機能に含まれます。以前このシナリオでは、DIM リファレンスが最初の機能にだけ含まれました。

IOJ-1737326



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

機能名ドロップダウンは、今回よりプリプロセッサ ディレクティブとプリプロセッサ定義を正しく処理します。以前は、ドロップダウン リストに機能が誤って含まれているか、除外されている場合があります。

IOJ-1737226



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

今回より、スイートの製品バージョンが、スイート デバッグ ログ (setup.exe/debuglog) に記録されます。

IOJ-1736383



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

スイート プロジェクトの [イベント]ビューに表示されるアクションが、アルファベット順に並びます。

IOJ-1735185



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

/PROPERTY:value を使うコマンドラインによって抑制されるスイート プロパティが ISHiddenProperties に含まれているとき、これらがデバッグ ログで隠されます。

InstallShield 2015 から、コマンドラインを使って渡されるスイート プロパティを ISHiddenProperties に追加すると、デバッグ ログでこれを隠すことができるサポートが追加されました。スイートでは、プロパティの設定方法が 2 種類あります：

- ・ PROPERTY=value
- ・ /PROPERTY:value

以前、ISHiddenProperties が含まれているときは予定通り PROPERTY=value を使うセットはデバッグ ログで隠れましたが、/PROPERTY:value を使うセットは隠れませんでした。

IOJ-1734782



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

2 つのスイート プロジェクトが実行中で、1 つはサイレントの場合、InstallShield は今回より、次のメッセージを抑制します：

このセットアップの別のインスタンスが既に実行中です。別のインスタンスが終了するまで待機してから、再試行してください。

その代わりに、スイート セットアップは今回より、同じスイートの別のインスタンスが実行中であるためにセットアップが終了したことを示すエラー コードを返します。ステータスが次のエラーコードと共にデバッグログに記録されます：0x80040711

IOJ-1732554

今回より、RFC3161 タイムスタンプがサポートされています：.msi、.exe、.dll ファイルは、元の属性を使用しますが、Authenticode または RFC3161 タイムスタンプのどちらかを使うようにしてください。.appx ファイルは、RFC3161 に常に新しい属性を使用します。

以前、RFC 3161 タイムスタンプ サーバーを使用しようとするとき、InstallShield が有効なタイムスタンプを提供しませんでした。

問題番号**問題の概要****IOJ-1732436**

LicenseAgreement.rtf 以外のファイル名を使用する場合、[印刷] ボタンのリンクをアップグレードする方法について説明する文章が、使用許諾契約に追加されました。

LicenseAgreement.rtf 以外のファイル名を使用する場合、[印刷] ボタンのクリック イベントリンクが新しい使用許諾契約 RTF ファイルをポイントするように更新する必要があります。

IOJ-1730924

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI

ウィザード ページでスイート プロパティの動作が更新され、ユーザー入力に角括弧 [] を使用できるようになりました。以前、スイート プロジェクトを作成中、カスタマ入力を受け取るためのカスタム ダイアログを追加したとき、エンド ユーザーがテキスト コントロールに角括弧 [] を含んだ場合に予期しない動作が発生しました。

IOJ-1730907

プロジェクト・この情報は、基本の MSI プロジェクトに適用します。

InstallShield は 64 ビット .NET アセンブリを登録し、正しくインストールします。

InstallShield は COM+ コンポーネントの .NET アセンブリを登録した後に 64 ビット COM+ アプリケーションをインストールします。以前、64 ビット COM+ アプリケーションをインストールするとき、InstallShield が一部のインスタンスでロールバックを行い、また別のインスタンスではインストールが成功したにもかかわらず COM+ コンポーネントが登録されませんでした。

IOJ-1729167

プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI

ロード処理に 0.5 秒以上を要するスイート インストール中、InstallShield は今回より、[インストールようこそ] ダイアログが表示される前に、プログラムが起動済みで、ロード処理を完了する必要があることを示す、スプラッシュ スクリーンを表示します。スプラッシュ スクリーンに、InstallShield は提供されている中から一番大きい **setup.exe** アイコンを使用し、進行状況バーも含まれます。

問題番号**問題の概要**

IOA-000085326



プロジェクト・この情報は、基本の MSI プロジェクトに適用します。

Windows 7 マシンの 64 ビット バージョンで、MSI デバッガーが基本の MSI プロジェクトで正しく実行します。

以前、Windows 7 (x64) マシン上で一部の基本の MSI プロジェクトでは、インストール シーケンスの ExecuteAction アクション中に次のエラーが発生しました：

エラー 1719Windows Installer サービスにアクセスできませんでした。サポート担当者に連絡して、Windows Installer が正しく登録されているか確認してください。

IOA-000081824

フレクセラ・ソフトウェア ナレッジベースに記事「[Best Practices to Avoid Windows Setup Launcher Executable Issues \(Windows セットアップ ランチャー実行可能ファイルの問題を回避するためのベスト プラクティス\)](#)」が追加されました。以前のバージョンで使用可能な関連ホットフィックスは、このリリースに含まれています。

IOA-000080197



プロジェクト・この情報は、InstallScript プロジェクトに適用します。

InstallShield ヘルプ ライブラリが更新され、InstallScript **FileCompare**、**GetFileInfo**、および **SetFileInfo** 関数についての追加情報が提供されています。各トピックには、更新日が使用されることが記述されています。以前、これらの関数で使用される日付けが更新日か作成日のどちらなのか不明瞭でした。

IOA-000074928



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI

InstallationFeatures ダイアログの [機能選択ツリーコントロール] にデザイン強化が行われています。白い背景が使用され、すべての機能が同じ色で表示されます。以前、十分な数の機能が含まれたときにリストが縦にスクロールし、スクロールの範囲を超えた選択された機能はすべて、InstallationFeature ダイアログで予期しない色で表示されました。

IOA-000076537



プロジェクト・この情報は、基本の MSI プロジェクトに適用します。

InstallShield ヘルプ ライブラリの「インストールのビルド」セクションが更新され、「[インストールのビルド]ステップをクリック」の後に次の情報が追加されています。

メモ：ビルドが警告 -7235 を生成しました。これは予期する警告です。この警告を解決せずに次のステップに進むか、この警告を解決する場合は、必要に応じて[一般情報]ビューの[ソフトウェア識別タグ]領域で設定を構成できます。“ソフトウェア識別タグの使用”設定で[はい]が選択されている時に、4つの必須識別設定([一般情報]ビューの“一意な ID”、“一意な登録 ID”、“タグ作成者”、および“タグ作成者 ID”設定)のうち最低1つの値が設定されていなかった場合、空白の設定ごとに、ビルド警告 -7235 が一回発生します。詳細については、[製品のソフトウェア識別タグを含める]を参照してください。

IOA-000068608



プロジェクト・この情報は、基本の MSI プロジェクトに適用します。

「[サービス]ビューの設定」トピック(“種類”設定について)が更新されています。次のメモが追加されています：

メモ：[サービスの再開]アクションは、.msi パッケージではサポートされていません。.msi パッケージと共にこのアクションを含めると、[Windows Installer エラー 1939](#)が発生します。

IOA-000066261



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript MSI
- ・ マージ モジュール
- ・ MSI データベース
- ・ MSM データベース
- ・ トランスフォーム
- ・ スイート/アドバンスド UI

.ini ファイルでコマンドライン ビルドのパラメーターを渡して、InstallShield の[一般情報]ビューで指定された製品の名前をオーバーライドすることができます。.ini ファイルの[Project]セクションの下にある **Product=** エントリを使って、[一般情報]ビューで指定された製品名の値を正しくオーバーライドすることができます。以前は、一部の状況でオーバーライドが発生しませんでした。

IOC-000080520、
IOC-000067659



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI
- ・ InstallScript オブジェクト
- ・ マージ モジュール
- ・ MSI データベース
- ・ MSM データベース
- ・ QuickPatch
- ・ トランスフォーム

InstallShield テーブルで、コンポーネント属性に使用されるデフォルト値を設定するための新しいプロパティのサポートが追加されました。**InstallShield** テーブルに **MsiComponentAttributes** のプロパティが存在する場合、その値は **Component** テーブル内のデフォルト **Attributes** 列値を 8 から指定の値にオーバーライドします。

詳細は、これらのリリースノートの「[コンポーネントの属性に使用するデフォルト値を設定できる機能](#)」セクションを参照してください

システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム（ランタイム環境）の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム（オーサリング環境）の要件が説明されています。

InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	256 MB の RAM (512 MB 推奨)
ハードディスク	500 MB 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

項目	説明
オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none"> Windows Vista Windows Server 2008 Windows 7 Windows Server 2008 R2 Windows 8 Windows Server 2012 Windows 8.1 Windows Server 2012 R2 Windows 10 Windows Server 2016
権限	システムの管理者権限
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス
InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)	<p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または Professional Edition に統合することができます :</p> <ul style="list-style-type: none"> Visual Studio 2008 Visual Studio 2010 Visual Studio 2012 Visual Studio 2013 Visual Studio 2015 Visual Studio 2017 <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または Professional Edition に統合することができます :</p> <ul style="list-style-type: none"> Community Professional Premium Ultimate

ターゲット システムの要件



プロジェクト・スイート (アドバンスド UI、およびスイート / アドバンスド UI プロジェクト タイプ) 以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最低バー

ジョンです。スイートの場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最低バージョンです。

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最低要件を満たさなくてはなりません：

- Windows XP SP3
- Windows Server 2003 SP2
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

既知の問題

既知の問題一覧は、https://flexeracommunity.force.com/customer/articles/en_US/INFO/InstallShield-2016-Known-Issues をご覧ください。

法的情報

著作権情報

Copyright © 2017 Flexera Software LLC. All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera Software LLC およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software LLC からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software LLC によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software LLC が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本技術およびそれに関する情報のすべての複製は、Flexera Software LLC より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

知的財産

フレクセラ・ソフトウェアが所有する商標および特許の一覧は、<http://www.flexerasoftware.com/intellectual-property> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

(米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。